



# ダッシュボードとユーザ・ポータル の使用法

Version 2024.1  
2024-06-03

## ダッシュボードとユーザ・ポータルの使用法

InterSystems IRIS Data Platform Version 2024.1 2024-06-03

Copyright © 2024 InterSystems Corporation

All rights reserved.

InterSystems®, HealthShare Care Community®, HealthShare Unified Care Record®, IntegratedML®, InterSystems Caché®, InterSystems Ensemble®, InterSystems HealthShare®, InterSystems IRIS®, および TrakCare は、InterSystems Corporation の登録商標です。HealthShare® CMS Solution Pack™ HealthShare® Health Connect Cloud™, InterSystems IRIS for Health™, InterSystems Supply Chain Orchestrator™, および InterSystems TotalView™ For Asset Management は、InterSystems Corporation の商標です。TrakCare は、オーストラリアおよび EU における登録商標です。

ここで使われている他の全てのブランドまたは製品名は、各社および各組織の商標または登録商標です。

このドキュメントは、インターシステムズ社(住所: One Memorial Drive, Cambridge, MA 02142)あるいはその子会社が所有する企業秘密および秘密情報を含んでおり、インターシステムズ社の製品を稼働および維持するためにのみ提供される。この発行物のいかなる部分も他の目的のために使用してはならない。また、インターシステムズ社の書面による事前の同意がない限り、本発行物を、いかなる形式、いかなる手段で、その全てまたは一部を、再発行、複製、開示、送付、検索可能なシステムへの保存、あるいは人またはコンピュータ言語への翻訳はしてはならない。

かかるプログラムと関連ドキュメントについて書かれているインターシステムズ社の標準ライセンス契約に記載されている範囲を除き、ここに記載された本ドキュメントとソフトウェアプログラムの複製、使用、廃棄は禁じられている。インターシステムズ社は、ソフトウェアライセンス契約に記載されている事項以外にかかるソフトウェアプログラムに関する説明と保証をするものではない。さらに、かかるソフトウェアに関する、あるいはかかるソフトウェアの使用から起こるいかなる損失、損害に対するインターシステムズ社の責任は、ソフトウェアライセンス契約にある事項に制限される。

前述は、そのコンピュータソフトウェアの使用およびそれによって起こるインターシステムズ社の責任の範囲、制限に関する一般的な概略である。完全な参照情報は、インターシステムズ社の標準ライセンス契約に記載され、そのコピーは要望によって入手することができる。

インターシステムズ社は、本ドキュメントにある誤りに対する責任を放棄する。また、インターシステムズ社は、独自の裁量にて事前通知なしに、本ドキュメントに記載された製品および実行に対する代替と変更を行う権利を有する。

インターシステムズ社の製品に関するサポートやご質問は、以下にお問い合わせください:

InterSystems Worldwide Response Center (WRC)

Tel: +1-617-621-0700

Tel: +44 (0) 844 854 2917

Email: [support@InterSystems.com](mailto:support@InterSystems.com)

# 目次

1 ユーザ・ポータル	1
1.1 ユーザ・ポータルの目的	1
1.2 Business Intelligence へのログイン	1
1.2.1 優先言語の選択	2
1.3 ユーザ・ポータルの概要	2
1.4 ピボット・テーブルとダッシュボードの概要	3
1.5 ユーザ・ポータルのオプションの概要	5
1.6 セキュリティ	5
1.6.1 機能に対するセキュリティ	6
1.6.2 ピボット・テーブルとダッシュボードに対するセキュリティ	6
1.6.3 モデル要素に対するセキュリティ	6
2 ポータルの機能の使用法	7
2.1 フォルダ項目の表示	7
2.1.1 カバー・ビュー	7
2.1.2 リスト表示	9
2.1.3 ユーザ・ポータルの主要領域で使用可能なオプション	9
2.2 フォルダおよびフォルダ項目の可視性	10
2.3 カバーのカスタマイズ	11
2.3.1 カバーのパーツ	13
2.3.2 カバーのオプション	14
2.4 カバー・ビューのカスタマイズ	15
2.5 ユーザ・ポータルでのワークリストの使用法	16
2.6 ワークリストの表示/非表示の設定	17
2.7 アラートの登録/登録解除	18
2.8 アラートの送信	18
2.9 アラートの表示	19
2.10 電子メールの送信	20
2.10.1 Business Intelligence による電子メールのサポート方法	20
2.11 ワークフロー・タスクの管理	21
2.12 Web ページへのリンクの作成	22
3 ダッシュボードの案内	25
3.1 ダッシュボードの概要	25
3.2 ウィジェットのバリエーション	26
3.2.1 ピボット・テーブル・ウィジェット	26
3.2.2 スコアカード・ウィジェット	28
3.2.3 メータ・ウィジェット	28
3.2.4 マップ・ウィジェット	29
3.2.5 カレンダー・ウィジェット	29
3.2.6 コントロール・ウィジェット	30
3.2.7 カスタム・ウィジェット	30
3.3 ウィジェットのデータ・ソース	30
3.4 ウィジェットの基本	31
3.5 コントロールおよびボタンの場所	31
3.6 空のウィジェット	32
4 ダッシュボードの使用法	33
4.1 ワークリストの表示の切り替え	33

4.2 ウィジェット・ウィンドウの管理 .....	33
4.2.1 ウィンドウのボタン .....	33
4.2.2 ウィジェットのサイズ変更 .....	34
4.2.3 ウィジェットの移動 .....	34
4.3 データのフィルタ処理 .....	34
4.3.1 フィルタ・コントロールの使用法 .....	34
4.3.2 時間レベルのフィルタ・コントロール .....	36
4.3.3 日付レベルのフィルタ・コントロール .....	37
4.3.4 メジャーのフィルタ・コントロール .....	38
4.3.5 計算ディメンジョンのフィルタ・コントロール .....	38
4.3.6 OnClick を使用したフィルタ処理 .....	39
4.3.7 データ・ソースによる違い .....	40
4.4 フィルタの効果の理解 .....	40
4.5 データの並べ替え .....	42
4.6 行数または列数の指定 .....	43
4.7 表示タイプの変更 .....	43
4.8 グラフ・ズーム機能の使用法 .....	44
4.9 コンボ・グラフの使用法 .....	44
4.10 リストの表示 .....	46
4.10.1 マップ・リストのバリエーション .....	46
4.10.2 NLP メジャー値の表示 .....	47
4.11 ドリル・ダウン .....	49
4.11.1 ダブルクリックによるドリル・ダウン .....	49
4.11.2 ドリルダウン・ボタンの使用 .....	50
4.12 ディメンジョン・リストの使用法 .....	51
4.13 別のダッシュボードへのドリル操作 .....	52
4.14 ウィジェットの更新 .....	53
4.15 ダッシュボードの再ロード .....	53
4.16 Microsoft Excel へのデータのエクスポート .....	53
4.17 データの印刷 .....	54
4.17.1 印刷の要件 .....	54
4.18 マップ・ウィジェットの使用 .....	54
4.19 その他のタスク .....	55
4.20 変更の保存 .....	57
5 [ピボット分析] ウィンドウの使用 .....	59
5.1 [ピボット分析] ウィンドウの使用 .....	59
5.2 クラスタ分析 .....	60
5.3 分布分析 .....	61
5.4 回帰分析 .....	62
5.5 Text Analytics コンテンツ分析 .....	64
5.6 Text Analytics エンティティ分析 .....	65
5.6.1 [概要] タブ .....	66
5.6.2 [セル詳細] タブ .....	68
5.6.3 [エンティティ] タブ .....	70

# 1

## ユーザ・ポータル概要

ここでは、InterSystems IRIS [Business Intelligence](#) のエンド・ユーザ向けの InterSystems IRIS® データ・プラットフォーム・ユーザ・ポータルの概要を示します。

システム要件に関する情報については、“インターシステムズのサポート対象プラットフォーム”を参照してください。

### 1.1 ユーザ・ポータルの目的

ユーザ・ポータルは、エンド・ユーザが直接使用するためのもので、以下のタスクを実行できるように設計されています。

- ・ ダッシュボードおよびピボット・テーブル（これらすべてに主要情報が格納されている）の表示と使用。この情報には、プロダクション・ビジネス・メトリックを含めることができます。[Business Intelligence](#) ユーザの場合、この情報にはデータの集約ビューが示され、さまざまな方法で調査できます。

これらの項目は、管理を容易にするために、フォルダにまとめることができます。また、項目の再検索をよりすばやくできるように、これらの項目にキーワードを付けることも可能です。

- ・ ダッシュボードおよびピボット・テーブルの他のユーザとの共有。

ユーザ・ポータルは共有環境です。つまり、指定されたネームスペースのユーザ・ポータルにアクセスできるすべてのユーザに、同じ項目が表示されます。

- ・ [ダッシュボードの作成](#)。これは一般的に、ピボット・テーブル、およびメータやスコアカードなどの他の要素を表示します。ダッシュボードは通常、特定の業務上のニーズに対応することを意図しています。
- ・ [アナライザ](#)へのアクセス。ピボット・テーブルの作成、またはデータの任意の分析の実行ができます。
- ・ Web ページへのリンクの共有とアクセス。
- ・ ワークフロー・タスクの管理。

### 1.2 Business Intelligence へのログイン

サポート対象のブラウザから、インスタンスの <baseURL> を使用して、以下の URL にアクセスします。

```
http://<baseURL>/csp/samples/_DeepSee.UserPortal.Home.zen
```

samples は、使用しているネームスペースです。プロンプトが表示されたら、InterSystems IRIS のユーザ名とパスワードを入力します。

## 1.2.1 優先言語の選択

このユーザ・インタフェースは異なる言語で表示できます。最初は、ブラウザで指定された言語が既定の優先言語（つまり、セッション言語）になります。そのブラウザ言語がサポートされていない場合は英語になります。

優先言語を選択するには、[概要] を選択し、[このセッションの優先言語] リストでオプションを選択します。

ここで優先言語を選択すると、ブラウザの言語を変更しても、システムはその言語を使用し続ける点に注意してください。

## 1.3 ユーザ・ポータル概要

以下にユーザ・ポータルの例を示します。

The screenshot shows a user portal for 'Sam Smith'. The top navigation bar includes 'Menu', 'Home | Logout', 'User: SSmith', and 'Licensed to: Development Dept'. The main content area is divided into several sections:

- Welcome, Sam Smith**: A greeting message.
- Alerts**: A table with 9 new items. The table has columns: From, Subject, Date, and an action column with icons for email, star, and close.
 

From	Subject	Date
Olivia Randolph-Erickson	Sample Alert	Today at 14:58:08
NBAKER	PLEASE REVIEW THIS ASAP	Today at 14:58:08
L. Jones	See this recent activity	Today at 14:58:08
NBAKER	NEED YOUR INPUT HERE	Today at 14:58:08
Max Wilson	Sample low-priority alert	Today at 14:58:08
Peter Wang	Sample Alert	Today at 14:58:08
Max Wilson	Sample high-priority	Today at
- Recent items**: A list of recently viewed items, including 'Widget Examples', 'Map Widget', and 'Use in Dashboards'.
- Dashboard Items**: A table listing various dashboard components.
 

Name	Type
Basic Dashboard Demo	DASHI
Drill Options	DASHI
Dynamic Dashboard	DASHI
HoleFoods Compound Cube	DASHI
Listing with Filters	DASHI
Listing with OnClick Filter	DASHI
Patients Compound Cube	DASHI
Real Time Updates	DASHI
Two Subject Areas Together	DASHI
User Defined Listing	DASHI
<b>Calculated Members</b>	
Alternative Avg Allergy Count	PIVOT
Average Patient Count per Decade	PIVOT
Primary Color Example	PIVOT
Unique Doctor Count	PIVOT

このページには以下の要素があることがわかります。

- ・ 左側の領域にはワークリストがあります。これは、ツールを含む長方形の領域です。詳細は、「[ユーザ・ポータルでのワークリストの使用法](#)」を参照してください。
- ・ 右側の主要領域には、パブリックな Business Intelligence のピボット・テーブルやダッシュボードなどの項目が表示されます。

ここでは、項目を開き、項目を削除し、項目にお気に入りのマークを付けることができます。フォルダの展開または折りたたみも可能です。最上部の領域には検索オプションがあります。

ダッシュボードでは、タイトルがある場合には、この領域にダッシュボードのタイトルが表示されます。タイトルがない場合には、この領域にダッシュボード名が表示されます。

この領域には、プライベートとしてマークされた項目は表示されません。

ワークフロー・ユーザの場合は、主要領域に [ワークフロー受信トレイ] というラベルの付いた項目が表示されます。

- ・ 左上の [メニュー] リンクには、ダッシュボードとピボット・テーブルを作成および開くオプションと、その他のタスクを Business Intelligence で実行するためのオプションがあります。  
%Developer ロールに割り当てられている場合は、このメニューに、管理ポータルにアクセスするためのオプションが含まれます。
- ・ 最上部の [ホーム] リンクは、このページを表示するリンクです。
- ・ [ログアウト] リンクを使用するとログアウトできます。

ユーザ・ポータルは共有環境です。ユーザに表示される項目の多くは、別のユーザにも表示されます。

## 1.4 ピボット・テーブルとダッシュボードの概要

ピボット・テーブルは、Business Intelligence の基幹であり、データを選択および集約するものです。以下の図は、年齢および男女別に患者数と患者 1 人あたりが抱えるアレルギー数の平均値を表すピボット・テーブルの例を示しています。

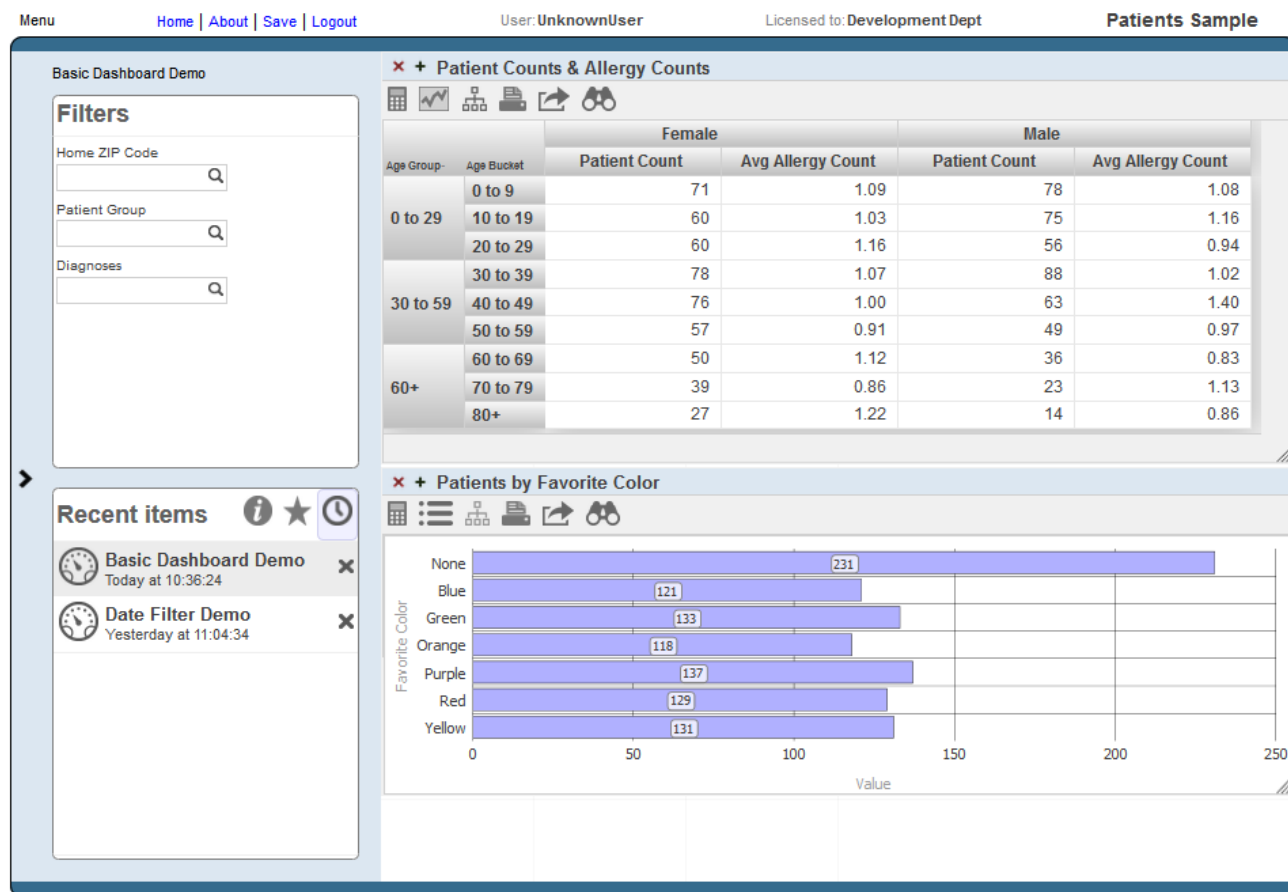
Age Group		Female		Male	
		Patient Count	Avg Allergy Count	Patient Count	Avg Allergy Count
0 to 29	0 to 9	680	0.60	750	0.63
	10 to 19	756	0.66	769	0.69
	20 to 29	661	0.64	648	0.61
30 to 59	30 to 39	815	0.63	735	0.65
	40 to 49	728	0.68	741	0.61
	50 to 59	586	0.58	552	0.62
60+	60 to 69	397	0.64	319	0.68
	70 to 79	304	0.58	242	0.56
	80+	217	0.57	100	0.66

この例を参照しながら、Business Intelligence の主要な用語について説明します。

- ・ レベルは、ソース・データをグループ化するために使用されます。レベルにはメンバがあります。同様に、個々のメンバは、ソース・データ内の特定のレコード・セットに対応します。  
例えば、Age Group レベルには、メンバ 0-29、30-39、および 60+ があります。Gender レベルには、メンバ Female および Male があります。
- ・ メジャーはピボット・テーブルの本文に表示される値で、ソース・データの値に基づいています。指定されたコンテキストに対して、メジャーは該当するすべてのソース・レコード値を集約し、これらを 1 つの値として表します。  
例えば、メジャー Patient Count は患者数、メジャー Avg Allergy Count は患者 1 人あたりのアレルギー数の平均値です。

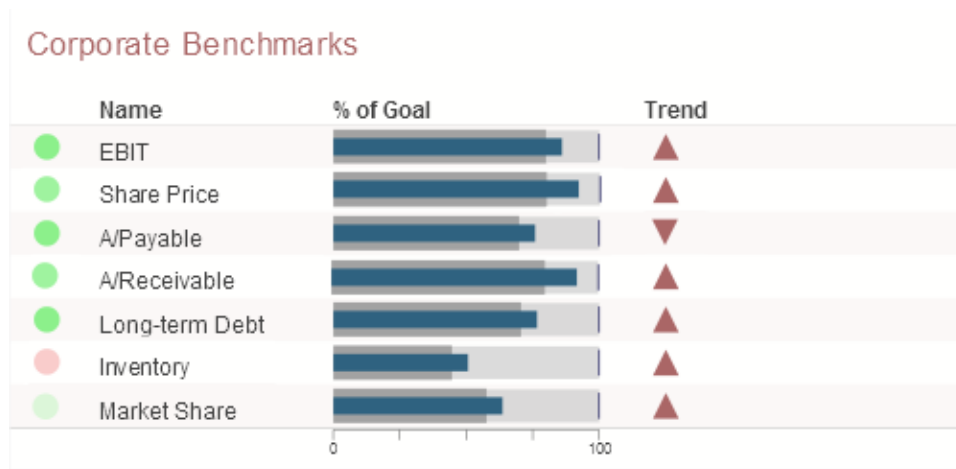
前述の例は、アナライザ内のピボット・テーブルのプレビューを示します。アナライザには、ピボット・テーブルの変更、Microsoft Excel へのエクスポート、グラフ形式への切り替えなどを行うためのツールが多数用意されています。

一般的にピボット・テーブルは、ダッシュボード内に以下のように表示されます。



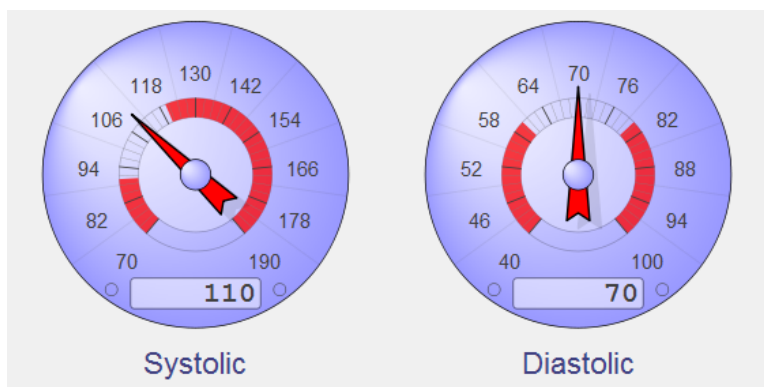
このダッシュボードには、複数のフィルタがあります ([フィルタ] ボックスに表示されています)。フィルタは、このダッシュボードで項目をフィルタ処理するために使用できます。

ダッシュボードには、メータやスコアカードなど、他の種類の要素を含めることができます。スコアカードには、複数のデータ行がテーブル形式で表示され、値に依存するランプや矢印などの機能も含まれます。以下はその例です。



メータには、以下のようにグラフィカル・オブジェクトに 1 つ以上の値が表示されます。





ダッシュボードの詳細は、“[ダッシュボードの使用法](#)”を参照してください。

## 1.5 ユーザ・ポータルオプションの概要

ユーザ・ポータルでは、権限に応じて以下のタスクを実行できます。

- ・ 他のユーザにアラートを送信します。

注釈 これらのアラートは、プロダクション・アラートとは関係ありません。

- ・ 受信したアラートを確認します。
- ・ 他のユーザに電子メールを送信します（システムがそのように構成されている場合）。
- ・ ワークフロー・タスクを管理します。
- ・ アクセスしやすくするために、項目にお気に入りのマークを付けます。
- ・ ダッシュボードを作成、変更、表示、および操作します。

ダッシュボードの作成および変更に関する詳細は、“[ダッシュボードの作成](#)”を参照してください。

- ・ ピボット・テーブルを作成、変更、表示、および操作します。

ピボット・テーブルの作成および変更に関する詳細は、“[アナライザの使用法](#)”を参照してください。

- ・ Web ページへのリンクを追加します。
- ・ ユーザ・ポータルに表示されているパブリックな項目を削除します。
- ・ アナライザを表示して、アナライザで他の分析を実行します。“[アナライザの使用法](#)”を参照してください。

## 1.6 セキュリティ

システムには、[Business Intelligence](#) の機能、Business Intelligence の項目、およびユーザ・データへのアクセスを管理する、正式なメカニズムがあります。このメカニズムは、基礎となる InterSystems IRIS セキュリティ・フレームワークに基づいています。このセクションでは、このメカニズムが与える影響についてまとめます。

詳細は、“[InterSystems Business Intelligence の実装](#)”を参照してください。

## 1.6.1 機能に対するセキュリティ

ユーザ・ポータルとアナライザは、別々のエンティティとして保護されています。これらのコンポーネントの両方に対して、読み取りアクセス権および書き込みアクセス権があるかどうかはユーザによって異なります。例えば、ユーザ・ポータルに対しては読み取りアクセス権と書き込みアクセス権の両方がある（つまり、ダッシュボードの表示および作成が可能）が、アナライザに対しては読み取りアクセス権のみがある（つまり、ピボット・テーブルの変更はできるが、その変更は保存できない）場合があります。

## 1.6.2 ピボット・テーブルとダッシュボードに対するセキュリティ

ユーザ・ポータルに表示されるピボット・テーブルやダッシュボードなどの項目は、フォルダ項目と呼ばれ、リソースを介して保護できます。これは、以下のように実行されます。

- ・ 管理者は以下の設定を実行します。
  - － 管理ポータルでのリソースの作成。
  - － 管理ポータルでのロールの作成。これらのロールには、リソースに対する READ 権限、またはリソースに対する READ 権限と WRITE 権限の両方を設定できます。
  - － ロールへのユーザの割り当て。この割り当てにより、ユーザは、項目またはリソースに関連付けられた項目の読み取り（または読み取りと変更）ができます。

その後、管理者は Business Intelligence ユーザに、使用可能なリソースおよびその使用方法を通知する必要があります。

- ・ フォルダ項目を保存するとき、該当するリソースの名前を [リソースへのアクセス] フィールドに入力できます。

## 1.6.3 モデル要素に対するセキュリティ

Business Intelligence のモデル要素は、リソースを介して保護することもできます。これは、以下のように実行されます。

- ・ 管理者は、前のセクションで説明したように、リソースおよびロールを作成し、ロールにユーザを割り当てます。
- ・ 開発者は、キューブ、サブジェクト領域、および KPI（重要業績評価指標）のそれぞれを保護するリソース（ある場合）を指定します。

# 2

## ポータルの機能の使用方法

ここでは、InterSystems ユーザ・ポータルが持つ基本機能の使用方法を説明します。

注釈 ユーザ・ポータルのアラートは、プロダクション・アラートとは関係ありません。

“BI サンプルのアクセス方法” も参照してください。

### 2.1 フォルダ項目の表示

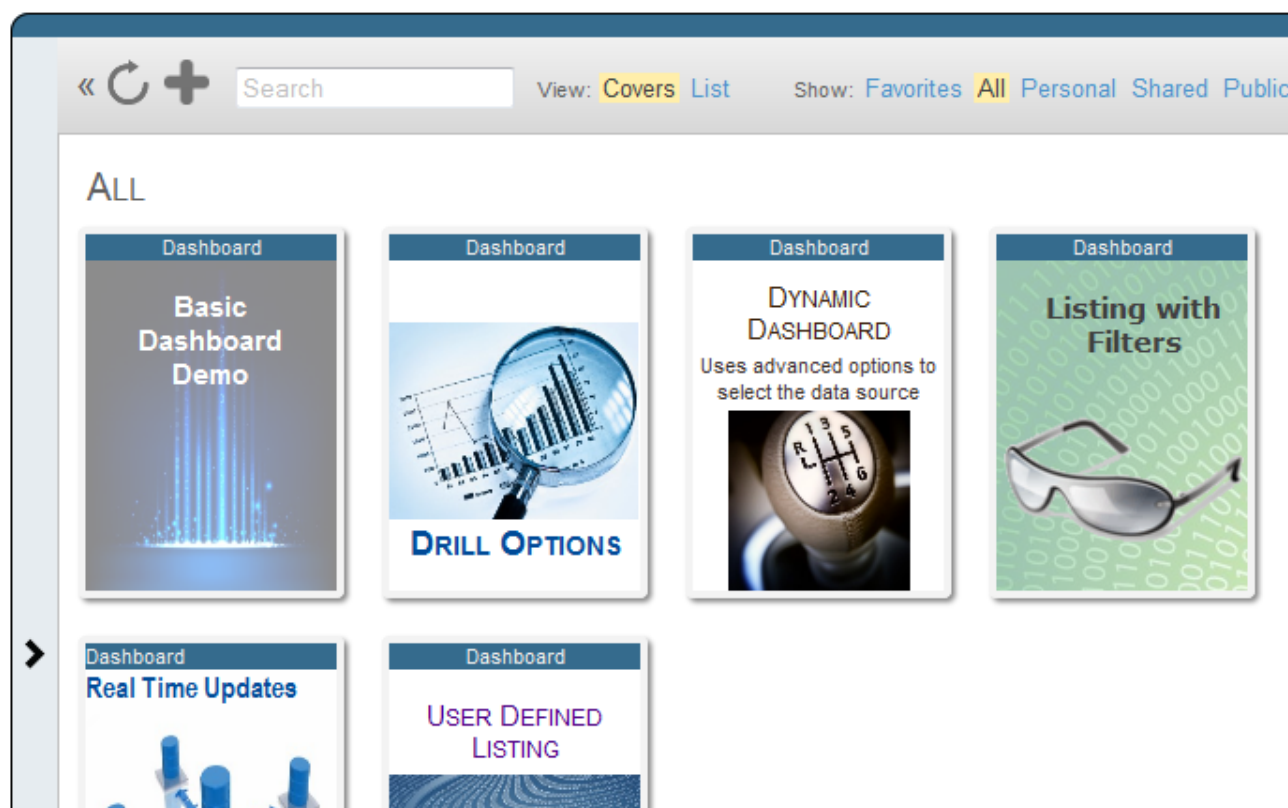
ユーザ・ポータルの主要領域には、このネームスペース内のダッシュボードとピボット・テーブルが表示されます。ダッシュボードを表すアイコンとピボット・テーブルを表すアイコンも一緒に表示されます。この項目には、Web ページへのリンクも表示できます。これらの項目はすべて、フォルダ (主にセキュリティのために使用される) にグループ化できるため、フォルダ項目と呼ばれます。

この領域の上部にある [カバー] オプションおよび [リスト] オプションを使用して、それぞれカバー・ビューおよびリスト・ビューを表示します。

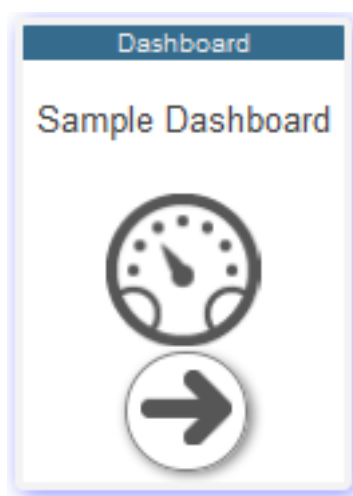
また、[メニュー]→[ダッシュボードの検索] を使用して、ダッシュボードを開くこともできます。

#### 2.1.1 カバー・ビュー

以下にカバー・ビューの例を示します。

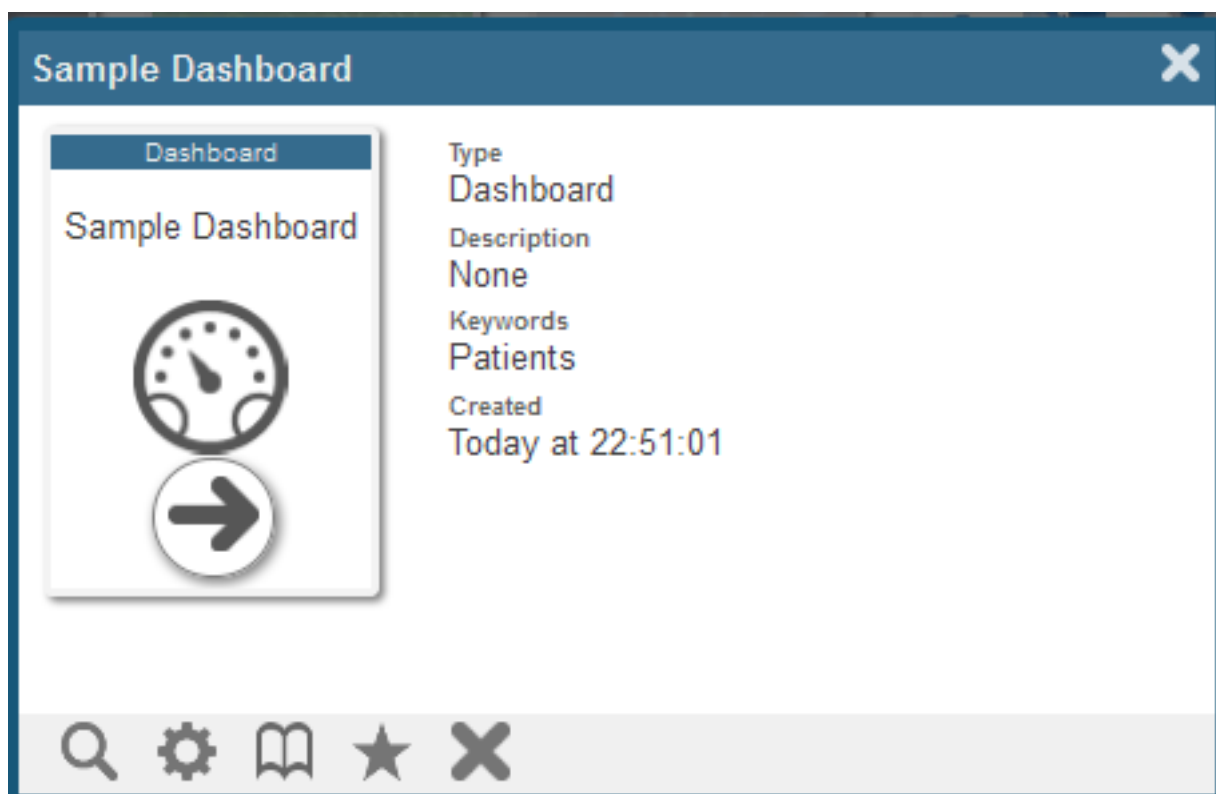


カバーの上にカーソルを置くと、以下のようにカバーに矢印が表示されます。



カバーの矢印を選択すると、ダッシュボードまたはその他の項目が表示されます。

矢印以外の任意の場所を選択すると、以下のような情報ダイアログ・ボックスが表示されます。



このダイアログ・ボックスを閉じるには、右上の [X] を選択するか、このダイアログ・ボックスの外側の画面を選択します。

## 2.1.2 リスト表示

以下にリスト・ビューの例を示します。

« ⌂ + Search View: Covers List Show: Favorites All Personal Shared Public			
	Name	Type	Keywords
🕒	Basic Dashboard Demo	DASHBOARD	Patients ★ X
🕒	Drill Options	DASHBOARD	★ X
🕒	Dynamic Dashboard	DASHBOARD	Patients ★ X
🕒	HoleFoods Compound Cube	DASHBOARD	HoleFoods ★ X
🕒	Listing with Filters	DASHBOARD	Patients ★ X
🕒	Listing with OnClick Filter	DASHBOARD	HoleFoods ★ X
🕒	Patients Compound Cube	DASHBOARD	Patients ★ X
🕒	Real Time Updates	DASHBOARD	Patients, KPIs ★ X
🕒	Two Subject Areas Together	DASHBOARD	Patients ★ X

このビューでは、フォルダ項目は、自身が属するフォルダ別にグループ化されます。

## 2.1.3 ユーザ・ポータルで主要領域で使用可能なオプション

ユーザ・ポータルの主要領域 (右の領域) では、以下の操作を実行できます。

- ・ (リスト・ビューの場合のみ) フォルダの展開または折りたたみを行います。そのためには、フォルダの左にある三角形を選択します。

カバー・ビューにはフォルダは表示されません。

- 既存のフォルダ項目を表示します。そのためには、カバーの矢印 ([カバー・ビュー](#)の場合) を選択するか、項目の名前 ([リスト・ビュー](#)の場合) を選択します。


ダッシュボードの場合は、"[ダッシュボードの使用法](#)" でオプションの詳細を参照してください。適切な権限がある場合は、ダッシュボードを編集できます。"[ダッシュボードの作成](#)" を参照してください。

ピボット・テーブルの場合は、適切な権限があれば表示したピボット・テーブルを編集できます。"[アナライザの使用法](#)" を参照してください。

- 項目を検索します。そのためには、右側の領域の最上部にあるボックスに検索テキストを入力し、**[検索]** を選択します。  
指定したテキストが名前またはキーワードに含まれている項目がすべて検索されます。検索では大文字と小文字が区別されません。
- フォルダ項目のさまざまなグループを表示します。

Show: **All** Personal Shared Public

詳細は、[次のセクション](#)を参照してください。

- フォルダ項目を削除します。[カバー・ビュー](#)では、目的のカバーを選択してから、**[X]** ボタンを選択します。[リスト・ビュー](#)では、目的の項目の行内の **[X]** ボタンを選択します。  
いずれの場合も、この操作を確定するよう求められます。
- フォルダ項目にお気に入りのマークを付けます。[カバー・ビュー](#)では、目的のカバーを選択してから、**[お気に入り]** ボタン  を選択します。リスト・ビューでは、目的の項目の行内の **[お気に入り]** ボタンを選択します。

## 2.2 フォルダおよびフォルダ項目の可視性

ユーザ・ポータルでは、フォルダおよびフォルダ項目のサブセットのみが表示されます。**[表示]** オプションを使用して、フォルダ項目のさまざまなグループを表示できます。

Show: **All** Personal Shared Public

このオプションは以下のとおりです。

- [すべて]** – パブリックなフォルダおよび項目をすべて表示します。これは、項目の **[パブリック]** 設定によって制御されます。  
**重要** **[パブリック]** 設定では、ユーザ・ポータルに項目を表示するかどうかは制御されるだけです。それ以外のアクセスは制御されません。
- [パーソナル]** – ユーザが所有しているパブリックな項目をすべて表示します。これは、項目の **[所有者]** 設定によって制御されます。既定では、項目の所有者は、その項目を作成した InterSystems IRIS® データ・プラットフォーム・ユーザです。
- [共有]** – ユーザが所有はしていないが、権限を持っている割り当てられたリソースを持つパブリックな項目をすべて表示します。これは、項目の **[リソース]** 設定によって制御されます。
- [パブリック]** – ユーザが所有しておらず、割り当てられたリソースも持っていないパブリックな項目をすべて表示します。

以下のテーブルに、可能なすべてのバリエーションと、[表示] で選択した内容に応じたフォルダおよびフォルダ項目の可視性を示します。

パブリックとしてマークされているか	所有者	リソース	項目はユーザ・ポータルに表示されるか
はい	自分	任意	はい ([すべて] または [パーソナル] を選択した場合)
はい	他のユーザ	リソースなし	はい ([すべて] または [パブリック] を選択した場合)
はい	他のユーザ	自分が使用できるリソース	はい ([すべて] または [共有] を選択した場合)
はい	他のユーザ	その他のリソース	いいえ
いいえ	任意	任意	いいえ (ただし、項目は、その項目の所有者とリソースに応じて、[メニュー] を使用して表示できることもあります)

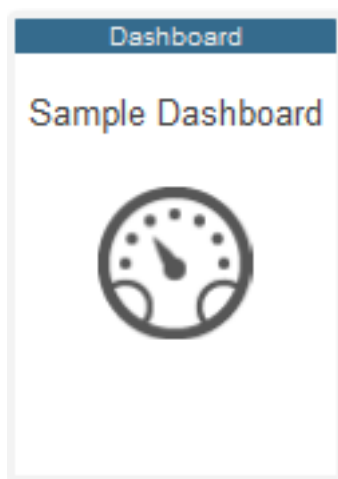
同様に、自分だけが表示できるように項目を定義するには、以下の操作を実行します。

- ・ 自分自身を [所有者] として設定します。
- ・ 自分だけが使用できる [リソース] を指定します。
- ・ 必要に応じて、[パブリック] を選択して、ユーザ・ポータルに項目を表示します。

背景情報は、"[Business Intelligence のセキュリティ](#)" を参照してください。

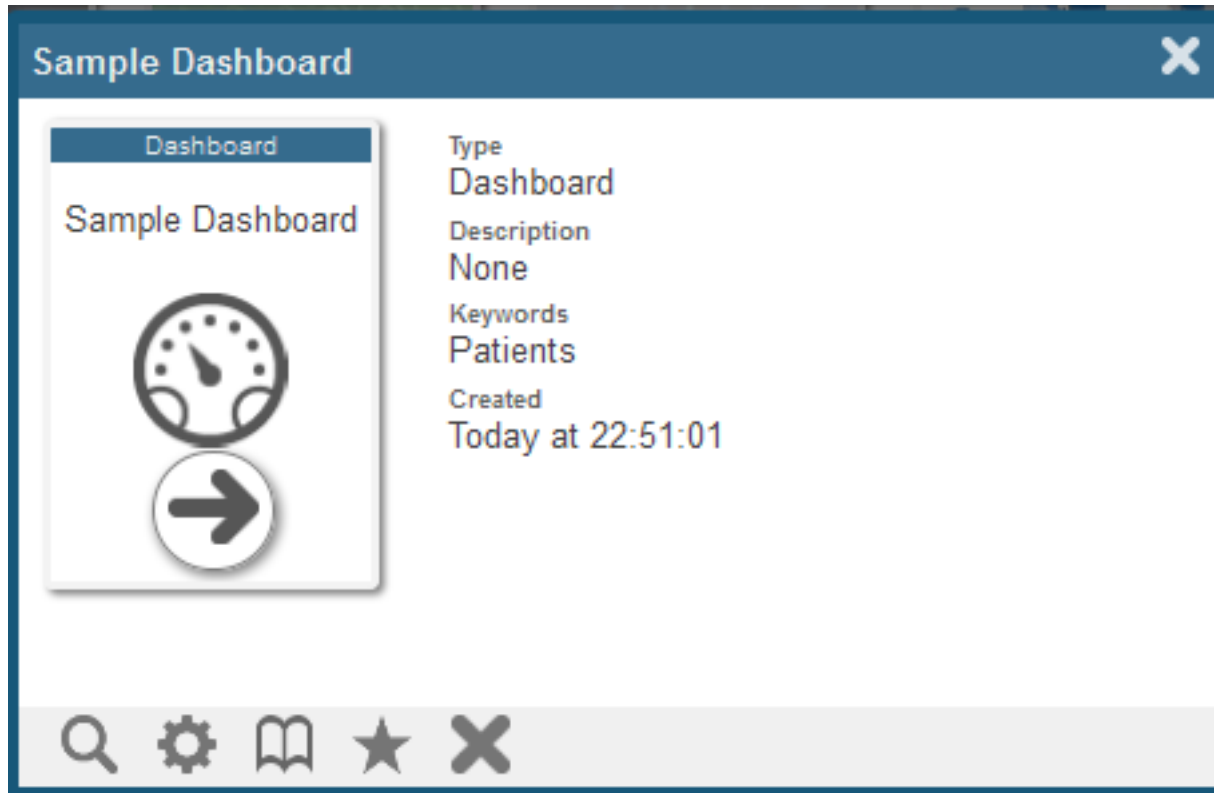
## 2.3 カバーのカスタマイズ

ユーザ・ポータルで [カバー・ビュー](#) を表示している場合、各項目の長方形のカバーが表示されます。項目のタイプごとに既定のカバーがあります。例えば、ダッシュボードの既定のカバーは以下の例のようになります。



カバーをカスタマイズするには、以下の操作を実行します。

- ・ 現在ユーザ・ポータルを表示している場合は、最初に**[カバーを表示]**オプションを選択します。次に、目的のカバーを選択します(ただし、カバーの下部領域に一時的に表示されている矢印は選択しないでください)。以下の情報ダイアログ・ボックスが表示されます。

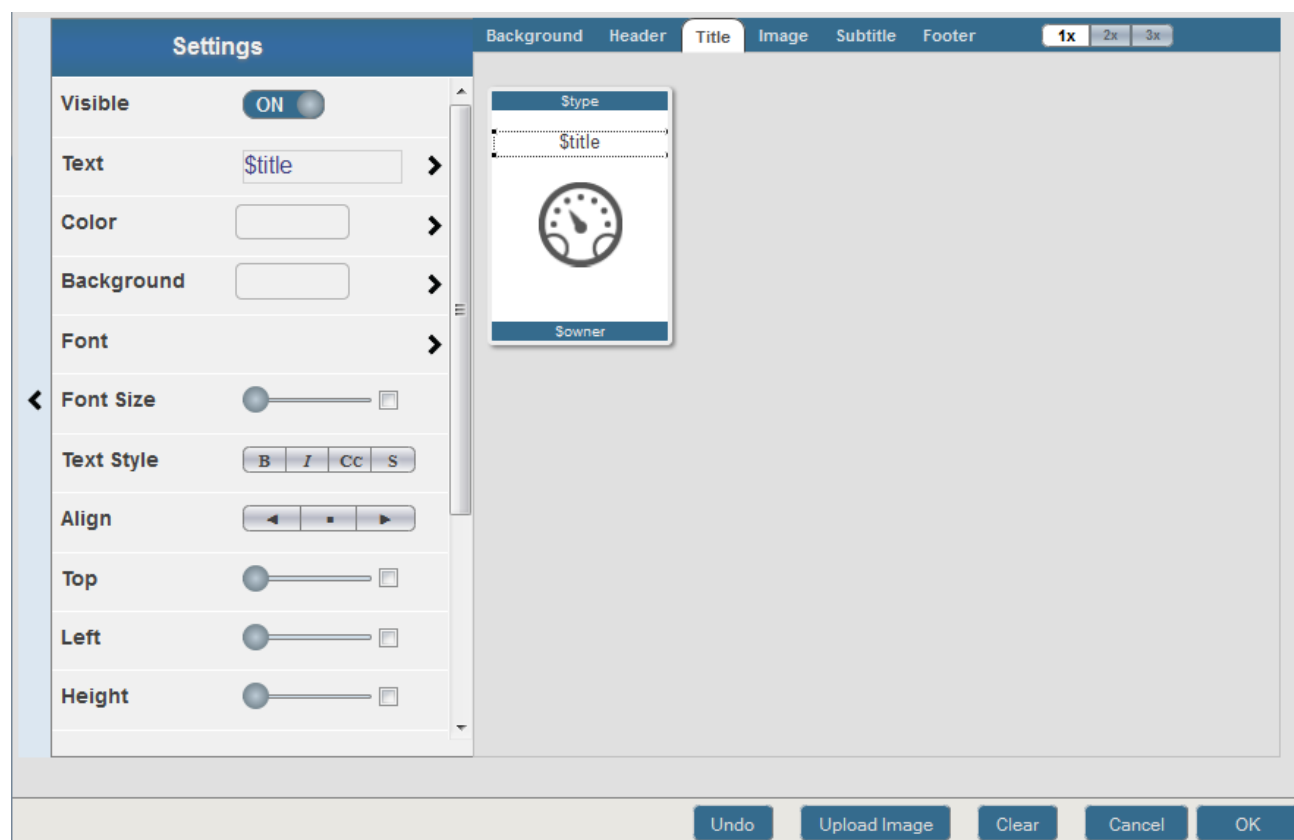


カバー・デザイン・ボタン  を選択します。

- ・ (ダッシュボードの場合) 現在ダッシュボードを表示している場合は、**[メニュー]→[ブック・カバーをデザイン]**を選択します。

いずれの場合も、以下のようなブック・カバー・エディタが表示されます。





以下のことに注意してください。

- ・ カバーのパーツをカスタマイズするには、上部にあるタブを選択するか、カバー・プレビュー内の領域を選択します。いずれの場合も、左側の領域にオプションのリストが表示されます。
- ・ カバー・プレビューのサイズを制御するには、右側の [1x]、[2x]、および [3x] ボタンを使用します。
- ・ 変更を取り消すには、[元に戻す] (ここには示されていません) を選択します。
- ・ すべてのカスタマイズを解除して既定のカバーに戻すには、[クリア] を選択します。
- ・ 変更を保存せずにエディタを閉じるには、[キャンセル] を選択します。
- ・ 変更を保存してエディタを閉じるには、[保存] を選択します。
- ・ イメージ・ファイルをアップロードするには、[イメージをアップロード] を選択します。

install-dir/CSP/broker/covers ディレクトリにイメージ・ファイルがコピーされます。イメージ・ファイルは、すべての InterSystems IRIS ネームスペースで使用できます。

- ・ 左側のオプションのリストを非表示にするには、[<] ボタンを選択します。

## 2.3.1 カバーのパーツ

カバーには、以下のパーツがあります。これらのパーツは、個別にカスタマイズできます。

- ・ 背景 — 長方形の内側の全領域。ヘッダおよびフッタの背後の領域 (隠れていることがあります) も含まれます。
- ・ ヘッダ — 最上部の長方形。既定では、この長方形は対比色で示されます。ここには項目のタイプ (ダッシュボードやピボットなど) が表示されます。

- ・ タイトル – 既定では、これはヘッダの下に表示されます。ここには項目（ダッシュボードやピボットなど）の名前が表示されます。ダッシュボードの場合、ダッシュボード・タイトルがある場合はここにダッシュボード・タイトルが表示されます。ダッシュボード・タイトルがない場合は、ここにダッシュボード名が表示されます。
- ・ イメージカバーに含まれるイメージ。既定では、このイメージはページの中央に配置されます。フォルダ項目の各タイプの既定のイメージが使用されます。
- ・ サブタイトル – 既定では、この領域は空白です。既定の位置はイメージの下です。
- ・ フッター最下部の長方形。既定では、この長方形は対比色で示されます。ここには項目の所有者が表示されます。

## 2.3.2 カバーのオプション

以下のテーブルは、各パーツで使用可能なオプションをまとめたものです。

オプション	メモ	背景で使用可能か	ヘッダ、タイトル、サブタイトル、またはフッターで使用可能か	イメージで使用可能か
表示	必要に応じて、このオプションの選択を解除して要素を非表示にします。	可	可	可
テキスト	文字列を入力するか、選択した項目の特定のテキストを表すトークンを選択します。	不可	可	可
色	テキストで使用する色を選択します。	不可	可	可
イメージ	イメージを選択するか、イメージの URL を入力します。	可	不可	可
背景	この要素の塗りつぶしパターンの色を選択します。	可	可	可
イメージをフル・サイズにする	このオプションを選択すると、イメージが背景全体に表示されます（まだそのようになっていない場合）。	可	不可	不可
フォント	書体を選択します。	不可	可	可
フォント・サイズ	スライダを使用してフォント・サイズを指定するか、チェック・ボックスを選択して既定値に戻します。	不可	可	可
テキスト・スタイル	テキストのスタイルを選択します。	不可	可	可
配置	この要素を左揃え、中央揃え、または右揃えに配置するオプションを選択します。	不可	可	可
上	スライダを使用してこの要素の上端の位置を指定するか、チェック・ボックスを選択して既定値に戻します。	可	可	可

オプション	メモ	背景で使用可能か	ヘッダ、タイトル、サブタイトル、またはフッタで使用可能か	イメージで使用可能か
左	スライダを使用してこの要素の左端の位置を指定するか、チェック・ボックスを選択して既定値に戻します。	可	可	可
高さ	スライダを使用してこの要素の高さを指定するか、チェック・ボックスを選択して既定値に戻します。	可	可	可
幅	スライダを使用してこの要素の幅を指定するか、チェック・ボックスを選択して既定値に戻します。	可	可	可
余白	スライダを使用して、この要素の周囲の余白を指定します。	可	可	可
パディング	スライダを使用して、この要素の周囲のパディングを指定します。	可	可	可
不透明度	スライダを使用して、この要素の不透明度を指定します。	可	可	可
半径	スライダを使用して、この要素の角の半径を指定します。	可	可	可

## 2.4 カバー・ビューのカスタマイズ

ユーザ・ポータルのカバー・ビューの背景で使用するフォントと色をカスタマイズできます。以下はその例です。



そのためには、以下の操作を実行します。

1. 左側の [ < ] ボタンを選択します。

カバー・ビューで表示する必要はありません。

2. [バックグラウンド] を選択します。

3. 以下のオプションを指定します。

- ・ [色] – 背景に表示されるラベルのフォントの色を指定します (ここに示した、既定のカテゴリ名の [すべて] など)。
- ・ [背景] – 背景の色を指定します。
- ・ [フォント] – ラベルの書体を指定します。
- ・ [フォント・サイズ] – ラベルのフォント・サイズを指定します。
- ・ [テキスト・スタイル] – ラベルのテキストのスタイルを指定します。

または、[スタイルのリセット] を選択して、すべてのカスタマイズを削除します。

これらの変更は、このネームスペースのすべてのユーザに表示されます。

## 2.5 ユーザ・ポータルでのワークリストの使用法

ユーザ・ポータルのホーム・ページには、常に左側に 2 つのワークリスト領域があります。この領域には、サイト構成に応じて、さまざまなワークリストが表示されます。どのワークリスト領域にも、表示できるワークリストを示すアイコンが、右上隅に表示されます。以下はその例です。

















アイコンが表示されない場合、このワークリスト領域に表示できるワークリストは 1 つだけです。

ハイライト表示されたアイコンは、ワークリスト領域に現在どのワークリストが表示されているかを示します。別のアイコンを選択して、対応するワークリストをこの領域に代わりに表示することができます。

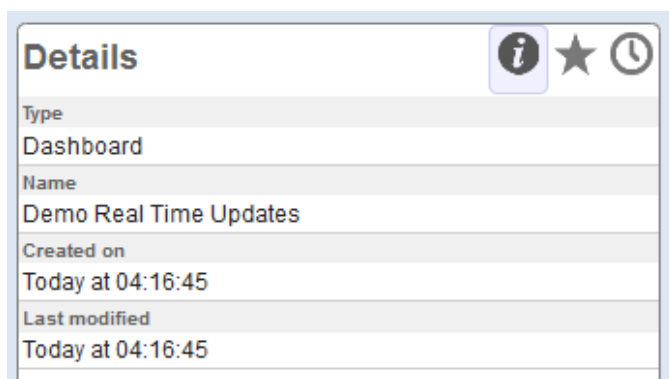
ユーザ・ポータルで使用可能なワークリストは以下のとおりです。

- ・ [警告] ワークリストには、最近ユーザに送信されたアラートが表示されます。以下はその例です。

Alerts			19 new item(s)	 	
From	Subject	Date			
 Keith Madison	for your demo to management	Today at 10:03:36			
 Olivia Randolph-Erickson	Sample Alert	Today at 10:03:57			
 NBAKER	PLEASE REVIEW THIS ASAP	Today at 10:03:57			
 Jones	See this recent	Today at			

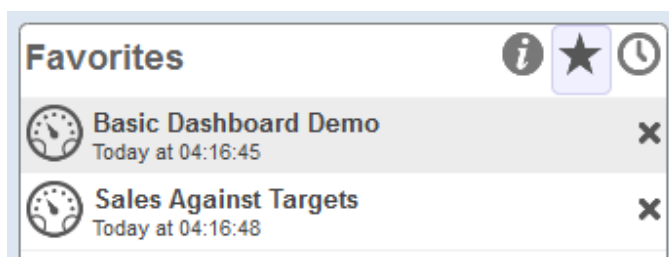
詳細は、「アラートの表示」を参照してください。

- ・ [詳細] ワークリストには、ピボット・テーブルまたはダッシュボードの詳細が表示されます。以下はその例です。

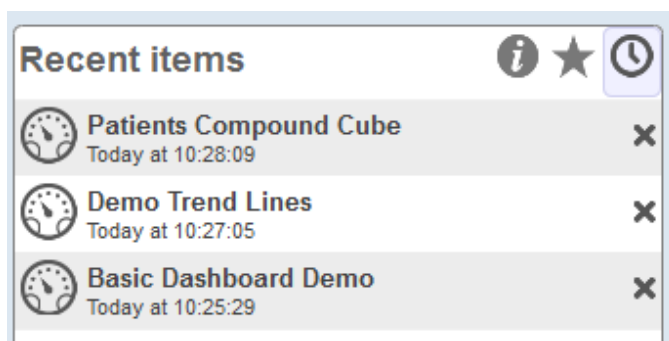


項目の詳細を表示するには、ユーザ・ポータルの主要領域にある項目名の左側にあるアイコンを選択します。[詳細] ワークリストが更新されます。

- ・ [お気に入り] ワークリストには、お気に入りとしてマーク付けした項目がすべて表示されます。以下はその例です。



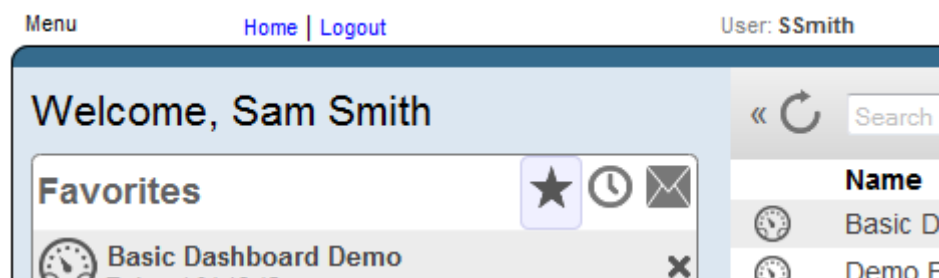
- ・ [最近の項目] ワークリストには、最近アクセスした項目が、アクセス日の降順に表示されます。以下はその例です。



いずれの場合も、項目を開くには、項目を選択します。ワークリストから項目を削除するには、[X] ボタンを選択します。

## 2.6 ワークリストの表示/非表示の設定

主要領域の右上隅に、ワークリストの表示の切り替えに使用できる [ << ] ボタンが表示されます。



◀ ボタンを選択して、ワークリストを非表示にします。その後、必要に応じて [>>] ボタンを選択すると、ワークリストが再表示されます。

## 2.7 アラートの登録/登録解除

アラートに登録するかどうかを変更するには、以下の操作を実行します。

1. ユーザ・ポータルのホーム・ページにアクセスします。
2. [メニュー]→[アラートへの登録] を選択します。

以下のようなダイアログ・ボックスが表示されます。

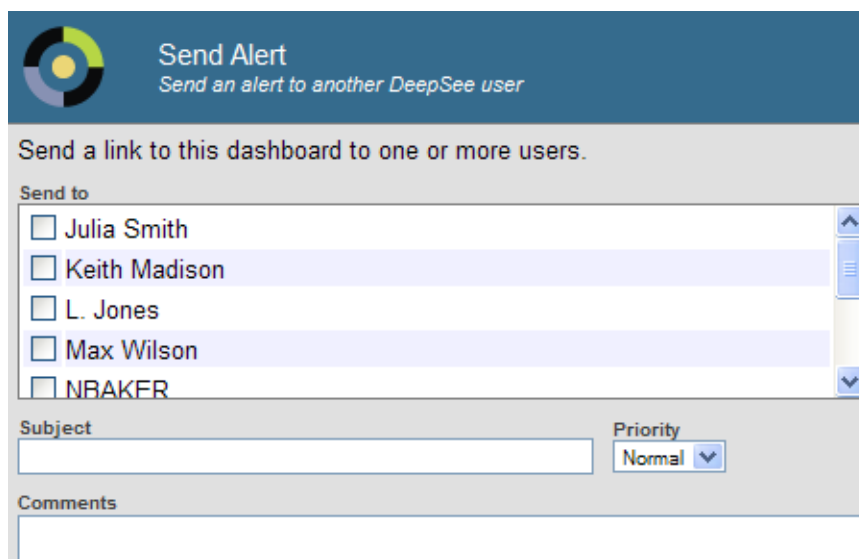
3. 以下のオプションを指定します。
  - ・ [フルネーム] – 他のユーザがアラートを送信したときに、表示させるユーザのフルネームを入力します。
  - ・ [アラート有効] – このオプションは、アラートを受信する場合に選択します。
4. [OK] を選択します。

## 2.8 アラートの送信

他の InterSystems IRIS Business Intelligence ユーザがアラートに登録済みの場合、アラートをそのユーザに送信できます。そのためには、以下のように操作します。

1. アラートを送信するデータを含むダッシュボードを開きます。
2. [メニュー]→[アラートの送信] を選択します。

以下のようなダイアログ・ボックスが表示されます。



The 'Send Alert' dialog box has a dark blue header with a logo and the text 'Send Alert' and 'Send an alert to another DeepSee user'. Below the header, it says 'Send a link to this dashboard to one or more users.' The 'Send to' section contains a list of users with checkboxes: Julia Smith, Keith Madison, L. Jones, Max Wilson, and NBAKER. The 'Subject' section has a text input field. The 'Priority' section has a dropdown menu set to 'Normal'. The 'Comments' section has a large text area.


3. 以下のオプションを指定します。

- ・ [送信先] – このアラートを受信する必要がある各ユーザを選択します。
- ・ [サブジェクト] – 任意で、他のユーザのアラート・ワークリストに表示する短いメッセージを入力します。
- ・ [優先度] – 任意で、優先度を選択します。これはアラートの表示方法に影響します。既定の優先度は [通常] です。
- ・ [コメント] – 任意で、長いメッセージを入力します。

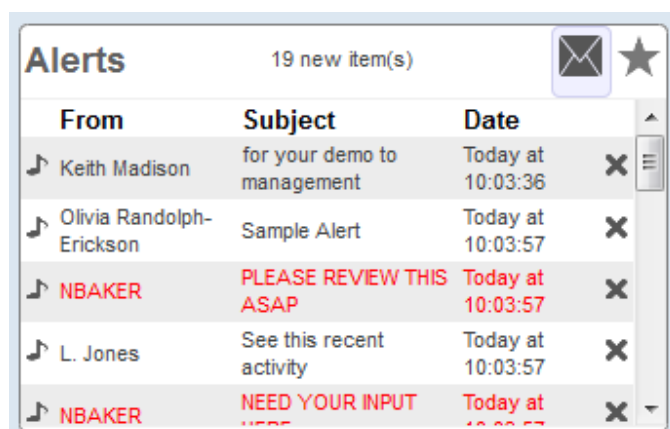
4. [OK] を選択します。

## 2.9 アラートの表示

アラートを表示するには、以下の操作を実行します。

1. ワークリスト領域で、[警告] ボタン  を選択します。

画面の例を示します。



The 'Alerts' table shows a list of alerts with columns: From, Subject, Date, and a delete icon (X). There are 19 new items. The table is scrollable.

From	Subject	Date	
Keith Madison	for your demo to management	Today at 10:03:36	X
Olivia Randolph-Erickson	Sample Alert	Today at 10:03:57	X
NBAKER	PLEASE REVIEW THIS ASAP	Today at 10:03:57	X
L. Jones	See this recent activity	Today at 10:03:57	X
NBAKER	NEED YOUR INPUT	Today at 10:03:57	X

以下の項目に注意してください。

- ・ 左側の星印は、このアラートをまだ開いていないことを示します。
  - ・ 高優先度の項目は赤字で表示され、標準優先度の項目は黒字で表示され、低優先度の項目はグレーの文字で表示されます。
2. アラートの行の任意の場所を選択して、アラートを開きます。関連付けられているダッシュボードが開き、以下のよう  
に **[アラートの詳細]** ワークリストにアラートの詳細が表示されます。

The screenshot shows a 'Basic Dashboard Demo' interface. On the left, the 'Alert Details' section displays an alert from Keith Madison, dated 'Today at 07:29:08', with the subject 'for your demo to management' and comments 'this would be useful for the demo on the 15h'. On the right, the 'Patient Counts & Allergies' section shows a table with columns for 'Age Group', 'Age Bucket', and 'Patient Count'. The table lists age groups from 0 to 29 to 30 to 59, with corresponding age buckets and patient counts.

Age Group	Age Bucket	Patient Count
0 to 29	0 to 9	
	10 to 19	
	20 to 29	
30 to 59	30 to 39	
	40 to 49	
	50 to 59	

## 2.10 電子メールの送信

ダッシュボード内から、ダッシュボードへのリンクを含む電子メールを送信できます (システムがそのように構成されている場合)。そのためには、以下のように操作します。

1. アラートを送信するデータを含むダッシュボードを開きます。
2. **[メニュー]**→**[電子メールの送信]** を選択します。

このオプションがない場合、システムは電子メールをサポートするように構成されていません。

3. 以下のいずれかが実行されます。

- ・ マシンの既定の電子メール・クライアント、およびダッシュボードへのリンクを含むメッセージを表示します。  
メッセージを編集し、1 人以上の受信者を指定して、そのメッセージを通常どおりに送信します。
- ・ ダイアログ・ボックスを表示します。

受信者の電子メール・アドレスを入力し、生成されたリンクと共に短いメッセージを入力し、**[OK]** を選択します。  
以前電子メールを送信したことがある場合は、**[送信先]** ドロップダウン・リストから受信者を選択できます。

### 2.10.1 Business Intelligence による電子メールのサポート方法

DeepSee は、以下のどちらかの方法で電子メールをサポートするように構成できます。



- ・ クライアント側電子メールを使用できます。この構成では、電子メールを送信すると、システムが、Microsoft Outlook など、既定のクライアント側電子メール・プログラムにアクセスします。これにより、通常の方法で電子メールを送信します。アドレス帳にもアクセスできます。
- ・ サーバ側電子メールを使用できます。この構成では、電子メールを送信する際、受信者の電子メール・アドレスを入力する必要があります。システムは、構成されている電子メール・サーバにメッセージを転送します。

電子メールをサポートしない構成も可能です。実装担当者に相談してください。実装担当者は、“[InterSystems Business Intelligence の実装](#)” の対象読者です。

## 2.11 ワークフロー・タスクの管理

ワークフロー・ユーザの場合は、ユーザ・ポータルの主要領域に [ワークフロー受信トレイ] というラベルの付いた項目が表示されます。

これを使用して、ワークフロー・タスクを管理します。[ワークフロー受信トレイ] を選択すると、ユーザ・ポータルの表示は以下ようになります。

#	Priority	Subject	Message	Role	Assigned to	Time Created	Age
1		Test this problem from Mercy H Wellbeing	Can someone please call b	Demo-Testing	HDonovan	Today at 19:39:39	00w 0d 00h 52m 09s
2		Problem reported by Nelson Q Jefferson	Need some help!!!!	Demo-Development	HDonovan	Today at 19:39:22	00w 0d 00h 52m 25s
3	NEW	Problem reported by A Watson	Need some help!!!!	Demo-Development		Today at 18:54:21	00w 0d 01h 37m 27s

このリストには、担当者未定のすべてのワークフロー・タスク ([新規] とマークされます) と、ユーザに割り当てられたすべてのオープン・タスクが表示されます。

ワークフロー・タスクを管理するには、そのタスクを選択して、ページの下側の領域に表示される詳細を確認します。

+ Details for selected item
Relinquish
Save
Corrected
Ignored

Subject	Priority	Assigned To	Time Created	Role
Problem reported by Mercy H Wellbeing		HDonovan	Today at 20:38:14	Demo-Development

Message  
Can someone please call back about my broken window? Thx.

Comments

この例では、複数の組み込みのボタンと、1 つの編集可能なカスタム・フィールド ([コメント]) が表示されていますが、タスクの定義に応じて別のボタンやフィールドが表示されることもあります。

選択したタスクについて、以下の操作を実行できます。

- ・ タスクの所有権を取得する。これを実行するには、[承認] を選択します (タスクが承認済みの前の図には、表示されていません)。この操作では、関連付けられた作業を実行するつもりがあることを示します。このタスクは、割り当て済みになり、他のユーザの [ワークフロー受信トレイ] には表示されなくなります。
- ・ タスクの所有権を放棄する。これを実行するには、[放棄] を選択します。この操作により、そのタスクは未割り当てになり、同じワークフロー・ロールのすべてのユーザに表示されます。

この操作と以下の操作は、タスクを所有している場合にのみ実行できます。

- ・ タスクを完了したことを示す。これを実行するには、**[修正されました]** を選択します。  
すると、このタスクはリストから削除されます。  
その後、ワークフロー・プロセスは、その定義に応じて、追加のタスクを生成することがあります。
- ・ タスクを無視済みとしてマークする。これを実行するには、**[無視されました]** を選択します。  
すると、このタスクはリストから削除されます。  
このオプションは、エラー状態（顧客と連絡が取れなくなった場合など）になったために、タスクを完了できないことを示すために使用します。
- ・ この領域内にある他のボタンを選択して、別の操作を実行する。前の図には、組み込みの操作項目のみが示されています。
- ・ 編集可能なフィールドに値を入力する。前の図には、1 つの編集可能なカスタム・フィールド (**[コメント]**) が示されています。  
これらのフィールドの用途は、このタスクを次に受け付ける担当者に情報を通知したり、永続レコードに情報を追加したりすることです。そのため、意味のあるエントリを入力する必要があります。

## 2.12 Web ページへのリンクの作成

ユーザ・ポータルでは、Web ページへのリンクを作成することもできます。そのためには、以下の操作を実行します。

1. 上部の **[+]** ボタンを選択します。  
または、左側の **[<]** ボタンを選択してから **[追加]** を選択します。
2. **[リンクの追加]** を選択します。
3. 以下のオプションを指定します。
  - ・ **[フォルダ]** – この項目が格納されているフォルダを指定します。  
“InterSystems Business Intelligence の実装” の “**フォルダ項目のローカリゼーションの準備**” も参照してください。
  - ・ **[名前]** – この項目の名前を指定します。  
“InterSystems Business Intelligence の実装” の “**フォルダ項目のローカリゼーションの準備**” も参照してください。  
この名前は項目の論理名として (**[フォルダ]** と共に) 使用されることに注意してください。例えば、**[名前を付けて保存]** オプションの使用時には、この論理名がシステムによって表示されます。
  - ・ **[タイトル]** – ダッシュボードのタイトルを指定します。  
タイトルを指定すると、ユーザ・ポータルの主要領域にそのタイトルが表示されます。タイトルを指定しないと、名前が表示されます。  
“InterSystems Business Intelligence の実装” の “**フォルダ項目のローカリゼーションの準備**” も参照してください。
  - ・ **[リンクの URL]** – URL を指定します。
  - ・ **[所有者]** – この項目を所有する InterSystems IRIS ユーザを指定します。項目に所有者が存在する場合は、所有者のみがその項目の **[リソースへのアクセス]** の値を指定できます。次の項目を参照してください。

- ・ **【リソースへのアクセス】**－この項目へのアクセスの制御に使用するリソースを指定します。“[フォルダおよびフォルダ項目の可視性](#)”を参照してください。
- ・ **【パブリック】**－このオプションを選択して、この項目をユーザ・ポータル<sup>1</sup>の主要領域に表示するかどうかを制御します。

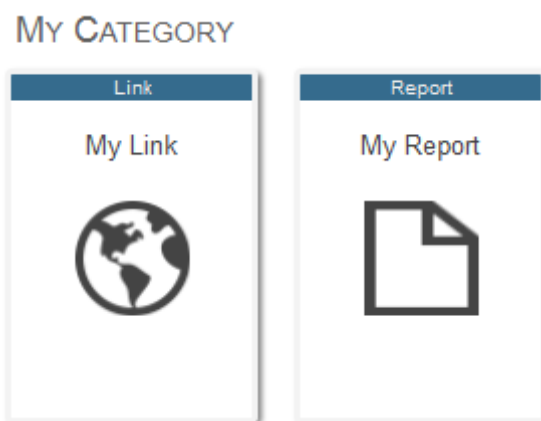
重要 このオプションでは、項目へのアクセスは制御されません。このリストで前述したように、アクセスの制御は**【所有者】**オプションと**【リソースへのアクセス】**オプションによって行われます。

- ・ **【説明】**－項目を簡単に説明します。
- ・ **【キーワード】**－この項目を後で検索できるようにするためのキーワードまたは語句をリストします。キーワードまたは語句のコンマ区切りリストを指定します。

これらのキーワードは、ユーザ・ポータル<sup>1</sup>の[リスト・ビュー](#)に表示されます。

- ・ **【カテゴリ】**－この項目が属するカテゴリを指定します。

項目のカテゴリを指定すると、[カバー・ビュー](#)では、項目がカテゴリ別にグループ化されます。以下はその例です。





# 3

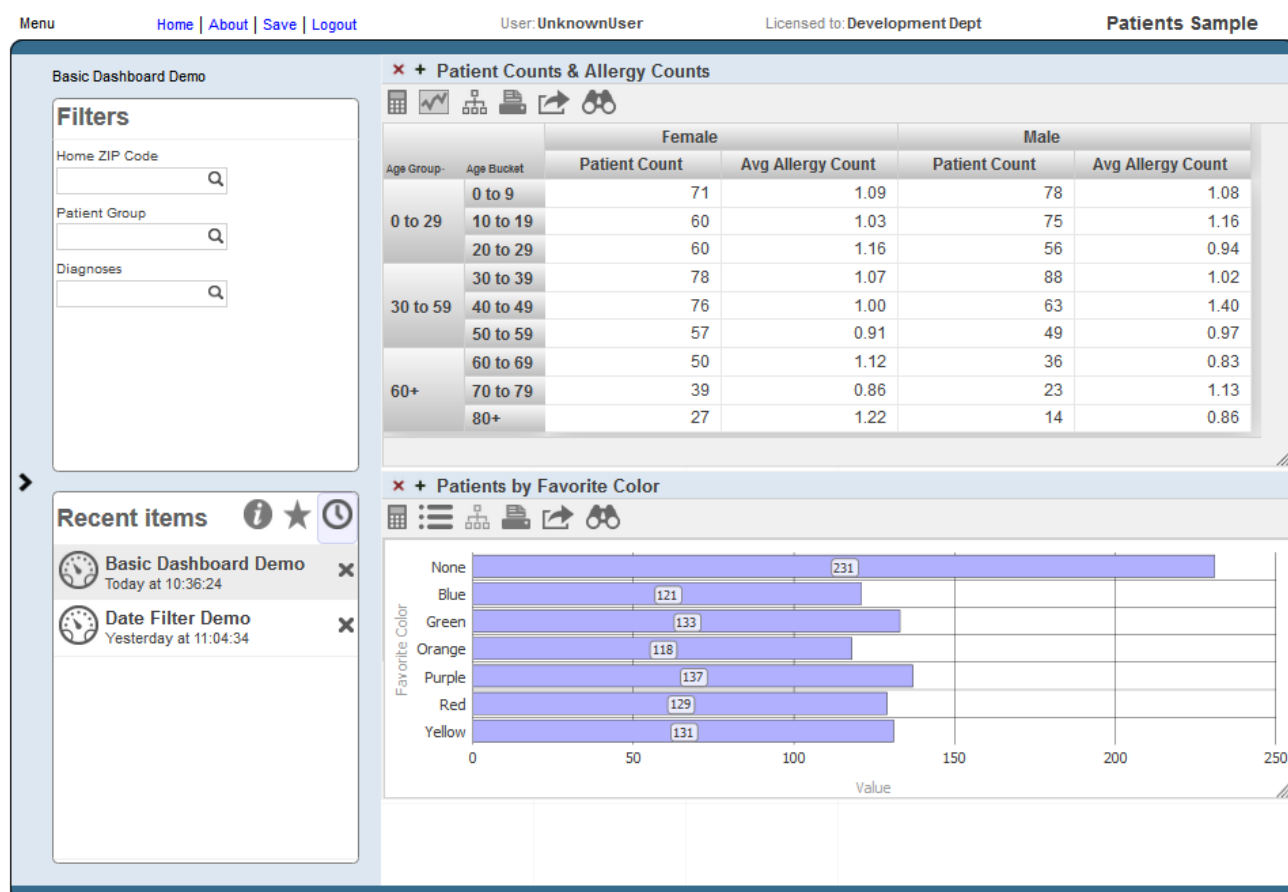
## ダッシュボードの案内

ここでは、システム内に既に存在しているダッシュボードのコンテンツを確認します。このページは、ダッシュボードの考えられるコンテンツの案内として意図されています。ここで説明する要素の使用法については、“[ダッシュボードの使用法](#)”を参照してください。

“[BI サンプルのアクセス方法](#)”も参照してください。

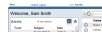
### 3.1 ダッシュボードの概要

以下の例は、ダッシュボードのサンプルを示しています。




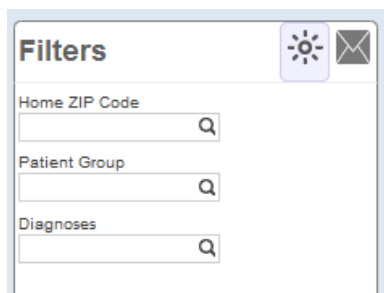
ダッシュボードは、以下の領域で構成されています。

- ・ 左上には、ダッシュボードの名前および（定義されている場合は）そのタイトルが表示されます。
- ・ システム構成およびダッシュボードの個々のレイアウトに応じて、ダッシュボードは、左側に 0 個、1 個、または 2 個のワークリスト領域を含むことができます。どのようなワークリスト領域でも、右上隅に、表示できるワークリストを示すアイコンが表示されます。以下はその例です。



ハイライト表示されたアイコンは、現在どのワークリストが表示されているかを示します。ハイライト表示されていないアイコンを選択して、それに対応するワークリストをこの領域に表示することができます。

[フィルタ] ワークリストは、ダッシュボードに固有です。これにアクセスするには、[フィルタ] アイコン  を選択します。以下はその例です。



- ・ 右の領域には、1 つ以上のウィジェットがあります。各ウィジェットは、ある形式でデータを表示する長方形のパネルです。

## 3.2 ウィジェットのバリエーション

このセクションでは、ダッシュボードに表示される可能性があるさまざまなタイプのウィジェットの内容について説明します。

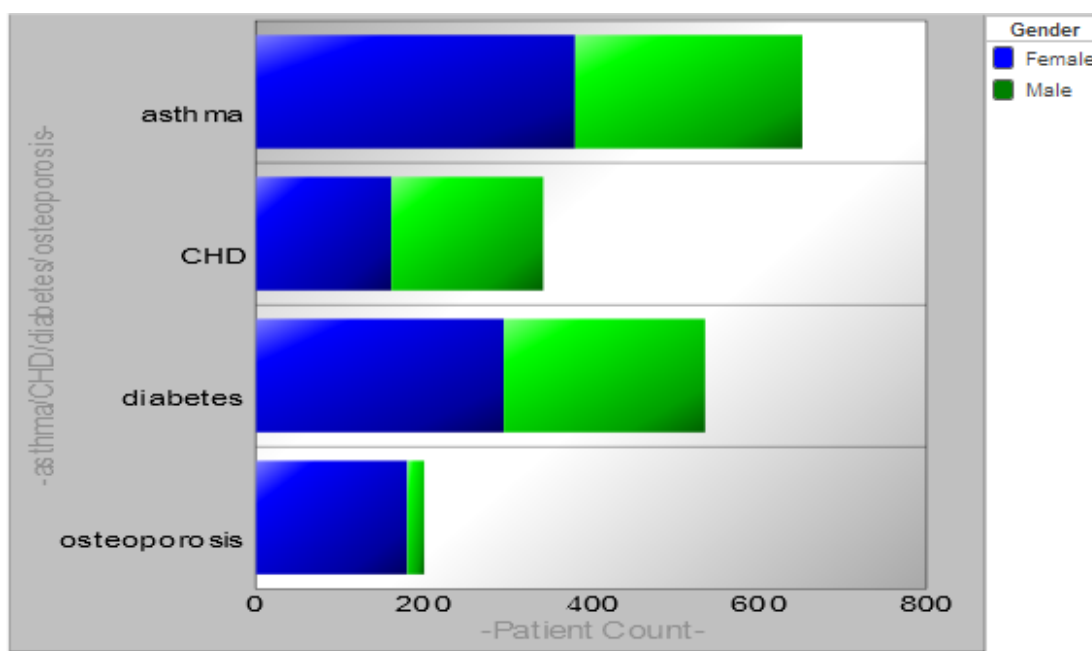
### 3.2.1 ピボット・テーブル・ウィジェット

ピボット・テーブル・ウィジェットは、以下の 3 つの形式のいずれかでデータを表示します。

- ・ 集約値を含むテーブル。以下はその例です。

Age Group		Female		Male	
		Patient Count	Avg Allergy Count	Patient Count	Avg Allergy Count
0 to 29	0 to 9	680	0.60	750	0.63
	10 to 19	756	0.66	769	0.69
	20 to 29	661	0.64	648	0.61
30 to 59	30 to 39	815	0.63	735	0.65
	40 to 49	728	0.68	741	0.61
	50 to 59	586	0.58	552	0.62
60+	60 to 69	397	0.64	319	0.68
	70 to 79	304	0.58	242	0.56
	80+	217	0.57	100	0.66

- ・ グラフ。以下はその例です。



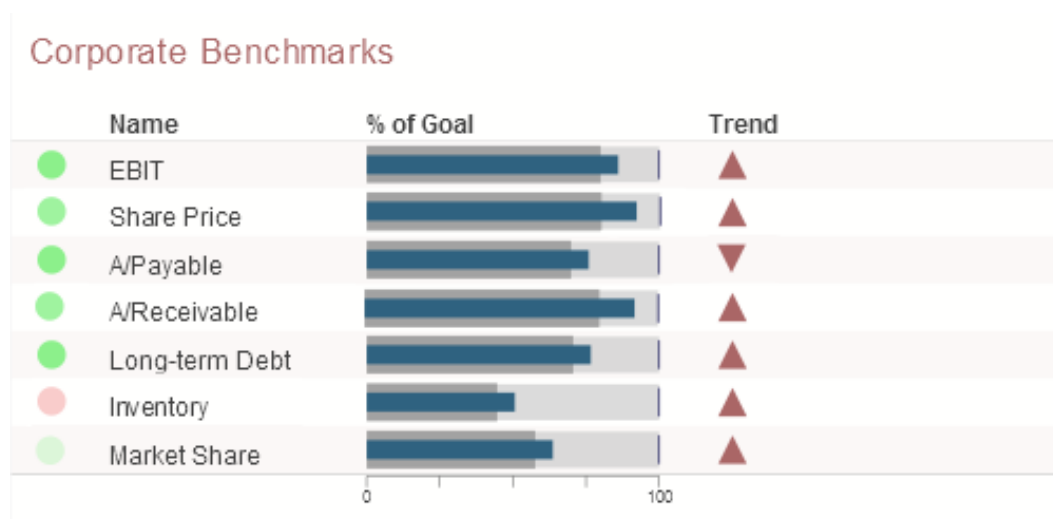
- ・ 最下位レベルの値のテーブルであるリスト。以下はその例です。

<input type="checkbox"/>	#	PatientID	Age	Gender	Home City	Test Score
<input type="checkbox"/>	1	SUBJ_100631	0	F	Elm Heights	50
<input type="checkbox"/>	2	SUBJ_100781	0	F	Redwood	78
<input type="checkbox"/>	3	SUBJ_100820	0	F	Magnolia	89
<input type="checkbox"/>	4	SUBJ_100966	0	F	Cypress	91
<input type="checkbox"/>	5	SUBJ_101274	0	F	Pine	
<input type="checkbox"/>	6	SUBJ_101340	0	F	Redwood	
<input type="checkbox"/>	7	SUBJ_101466	0	F	Magnolia	81
<input type="checkbox"/>	8	SUBJ_101532	0	F	Pine	67
<input type="checkbox"/>	9	SUBJ_101587	0	F	Elm Heights	77
<input type="checkbox"/>	10	SUBJ_102327	0	F	Redwood	79

100を超える行がある場合は、すべての行をページ単位でスクロールするために使用できるボタンが下部領域に表示されます。

### 3.2.2 スコアカード・ウィジェット

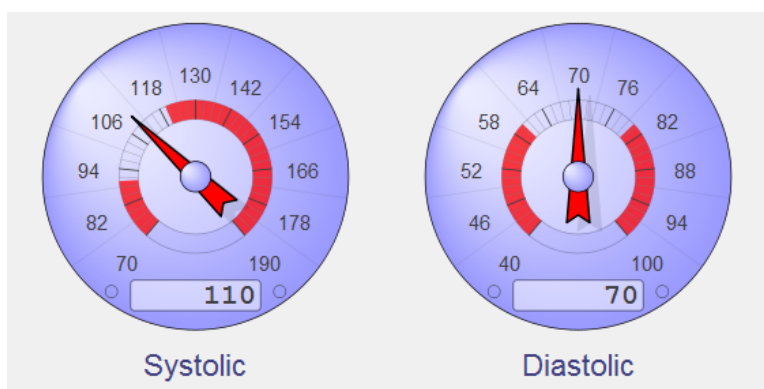
スコアカード・ウィジェットには、1 つ以上のデータ行がテーブル形式で表示され、値に依存するランプや矢印などの機能も含まれます。以下はその例です。



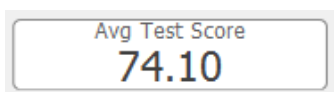
### 3.2.3 メータ・ウィジェット

メータ・ウィジェットには、以下のように、1 つ以上の値が表示され、それぞれの値はグラフィカル・オブジェクトに表示されます。





前の図は速度計を示しています。テキスト・メータもサポートされています。以下はその例です。



### 3.2.4 マップ・ウィジェット

ダッシュボードには、以下のようなマップ・ウィジェットを含めることができます。



通常、強調表示された地点は、ビジネスに関連する場所と一致します。

### 3.2.5 カレンダー・ウィジェット

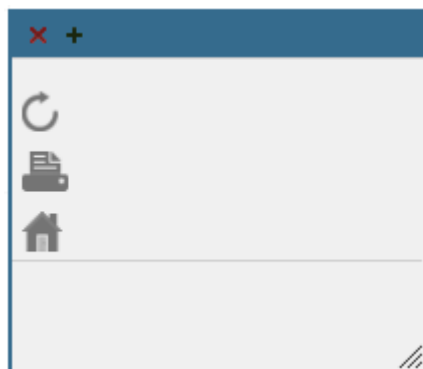
ダッシュボードには、以下のようなカレンダー・ウィジェットを含めることができます。

«	Day	Week	Month	»		
May 2011						
Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31	1	2	3	4

このウィジェットは、純粋に情報として含まれ、ユーザのデータには接続されていません。

### 3.2.6 コントロール・ウィジェット

コントロール・ウィジェットは、ツールバーのコントロールのみで構成されていて、本体コンテンツはありません。以下に例を示します。



### 3.2.7 カスタム・ウィジェット

ダッシュボードには、ポートレットと呼ばれるカスタム・ウィジェットを含めることもできます。以下に例を示します。

My Widget		
Sales	UP	12%
Costs	DOWN	-8%
Profits	UP	18%

## 3.3 ウィジェットのデータ・ソース

ほとんどのウィジェットでは、以下のいずれかのデータ・ソースを使用します。

- ・ ピボット・テーブル。ピボット・テーブルはアナライザで作成されます。ピボット・テーブルとは、ドラッグ・アンド・ドロップ操作で作成されるクエリです。

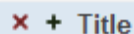
場合によっては、ミニ・アナライザを起動して、ピボット・テーブルをローカルに変更することもできます。この変更は他のウィジェット、ダッシュボード、およびユーザには影響しません。詳細は、["その他のタスク"](#)を参照してください。

- ・ KPI (重要業績評価指標)。KPI は、より高度なクエリでプログラマが作成します。

これらのすべてのデータ・ソースは、ピボット・テーブル・ウィジェット、スコアカード・ウィジェット、およびメータ・ウィジェットに表示できます。

## 3.4 ウィジェットの基本

ウィジェットには、以下のようなボタンが配置されたタイトル・バーが含まれている場合と含まれていない場合があります。



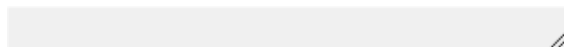
タイトル・バーには、タイトルが含まれる場合と含まれない場合があります。

ほとんどのウィジェットには、必要な場合にスクロール・バーが含まれます。ピボット・テーブルには、代わりに以下の例のようなページ送りボタンが含まれます。



ピボット・テーブルにネストした行が表示され、テーブルの行が 100 行を超える場合は、まず最初の 100 行が表示され、これらのページ送りボタンの代わりに[すべて表示]ボタンが表示されます。[すべて表示]ボタンを選択すると、すべての行にアクセスして、ページ送りボタンが表示されます。

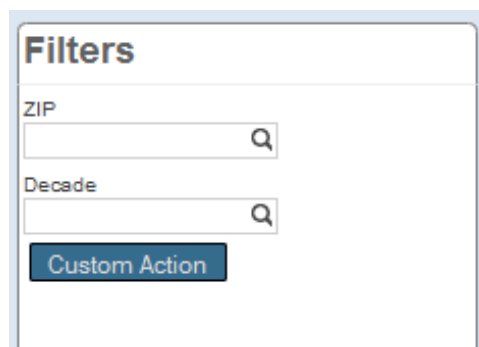
ダッシュボードの構成方法によっては、各ウィジェットの右下隅にサイズ変更ハンドルが表示される場合があります。



## 3.5 コントロールおよびボタンの場所

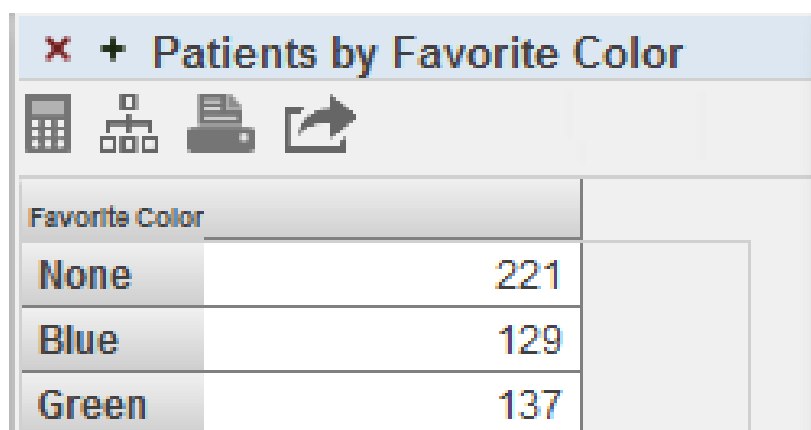
ダッシュボードには、コントロールおよびグラフィカル・ボタンを組み込むことができます。ダッシュボードの設計に応じて、これらの項目は、以下の場所のいずれかまたは両方にあります。

- ・ ダッシュボードの [フィルタ] ワークリスト。以下はその例です。



これらの項目は通常、ダッシュボード全体に影響します。

- ・ ダッシュボードに組み込まれたウィジェットのツールバー。以下はその例です。




Patients by Favorite Color	
Favorite Color	
None	221
Blue	129
Green	137

これらの項目は、通常、これらの項目が表示されているウィジェットにのみ影響しますが、他のウィジェットに影響することもあります。

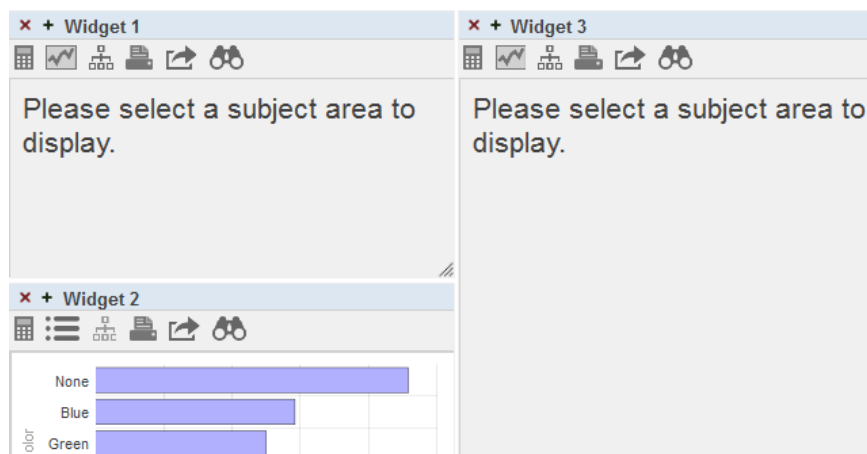
“[ダッシュボードの使用方法](#)” では、これらのオプションの使用に関する情報を示します。

## 3.6 空のウィジェット

空のウィジェットが表示される可能性のあるシナリオは 2 つあります。

最初のシナリオは、ダッシュボードを開いたときに、ウィジェット(または元になっているピボット・テーブル)が自動的に実行されないように意図的に構成されている場合です(この構成は、ピボット・テーブルで処理に時間がかかるクエリを使用している場合に役立ちます)。このシナリオでは、ウィジェットに更新ボタン  を含める必要があります。このボタンを使用して、ウィジェットの内容を強制的に表示します。そのようなボタンが存在しない場合は、ダッシュボードの所有者に連絡してください。

2 番目のシナリオは、ダッシュボードで使用するデータの一部をシステムが検出できない場合です。この場合、システムはできる限り多くのダッシュボードを表示します。影響を受けるいずれのウィジェットでも、以下のように表示されます。



これは、通常、このウィジェットで使用するデータ・ソースの名前を誰かが変更または削除したことを示します。また、このウィジェットのデータにアクセスする権限がないことを示す場合もあります。ダッシュボードの作成者に問い合わせるか、自分でウィジェットを再構成してください。詳細は、“[ダッシュボードの作成](#)” を参照してください。

# 4

## ダッシュボードの使用方法

ここでは、既存のダッシュボードの操作方法を説明します。

“BI サンプルのアクセス方法” も参照してください。

### 4.1 ワークリストの表示の切り替え

システム構成およびダッシュボードの構成に応じて、ダッシュボードは、右側に 0 個、1 個、または 2 個のワークリスト領域が含まれています。

現在表示しているダッシュボード内のワークリストの表示を一時的に切り替えられます。そのためには、[メニュー]→[ワークリストの非表示/表示] を選択します。ダッシュボードを保存しても、この変更は保存されません。



### 4.2 ウィジェット・ウィンドウの管理

このセクションでは、ウィジェットのサイズおよび配置を管理する方法について説明します。これらの変更は、以下の操作のいずれかを実行しない場合、すべて破棄されます。

- ・ [メニュー]→[自分の設定の保存] を選択します。このオプションを選択すると、変更がローカルに保存され、このユーザのみがこの変更を表示できるようになります。
- ・ “ダッシュボードの作成” の説明に従って、ダッシュボード自体を保存します。

#### 4.2.1 ウィンドウのボタン

すべてのウィジェットで、ウィジェット・ウィンドウの表示を制御するには、タイトル・バーにあるボタンを使用します。

ボタン	動作
	ウィジェットを一時的に非表示にします (ウィジェットをリストアするには、ダッシュボードを再表示します)。
	ウィジェットを最大化します。

## 4.2.2 ウィジェットのサイズ変更

ウィジェットのサイズを変更するには、右下隅にあるサイズ変更ハンドル（存在する場合）をドラッグします。



ウィジェットのサイズを変更できるかどうかは、[スケーラブル・グリッド] の影響も受けます。次のセクションを参照してください。

## 4.2.3 ウィジェットの移動

ダッシュボードの構成方法によっては、ウィジェットをその上に移動できる場合があります。以下の3つの可能性があります。

- ・ [スケーラブル・グリッド] オプションが有効な場合。この場合、ウィジェットの移動が可能な位置を表す非表示のグリッドが存在します。このグリッドに基づいて、ウィジェットを移動したり、サイズ変更したりできます。  
ダッシュボードのサイズを変更すると、すべてのウィジェットのサイズが自動で変更されます。[スケーラブル・グリッド] は、この動作をサポートする唯一のオプションです。
- ・ [ここにはめ込む] オプションが有効な場合。この場合、ダッシュボードに存在するウィジェットが1つだけならば、そのウィジェットは自動的に左上に配置され、移動することはできません。ダッシュボードに2つ以上のウィジェットがある場合、それらのウィジェットは再配置できます。ウィジェットを別のウィジェットの右、左、上、または下に移動するには、ウィジェットの上部バーを選択してドラッグします。
- ・ どちらのオプションも有効ではない場合。この場合、ウィジェットの位置およびサイズを自由に変更できます。

[スケーラブル・グリッド] オプションと [ここにはめ込む] オプションにアクセスするには、[メニュー]→[オプションを指定して保存...] を選択します。

## 4.3 データのフィルタ処理

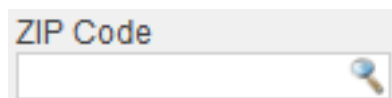
多くのダッシュボードには、1つ以上のウィジェットに表示されるデータのフィルタ処理に使用できるコントロールがあります。通常、コントロールが [フィルタ] ワークリストにある場合、これはダッシュボード全体に影響します。対照的に、コントロールがウィジェット・ツールバーにある場合、通常これはそのウィジェットにのみ影響します。

ほとんどのフィルタ・コントロールは、検索可能なコントロールとして表示されます。詳細は、コントロールで使用されるデータの型およびデータのソースによって異なります。後続の各セクションでは、そのバリエーションについて説明します。

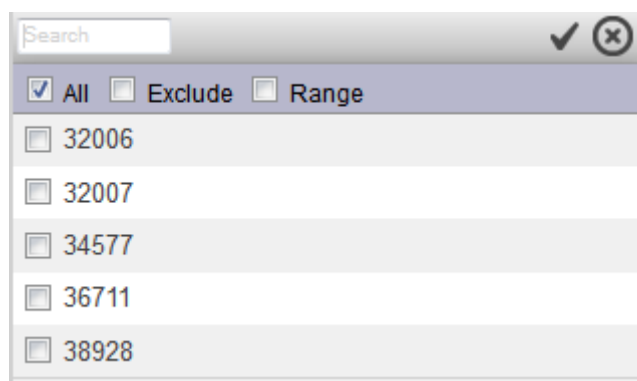
注釈 場合によっては、フィルタ・コントロールが読み取り専用になっていることがあります。この場合、フィルタ・コントロールの目的は、データがどのようにフィルタ処理されるかを通知することだけです。

### 4.3.1 フィルタ・コントロールの使用法

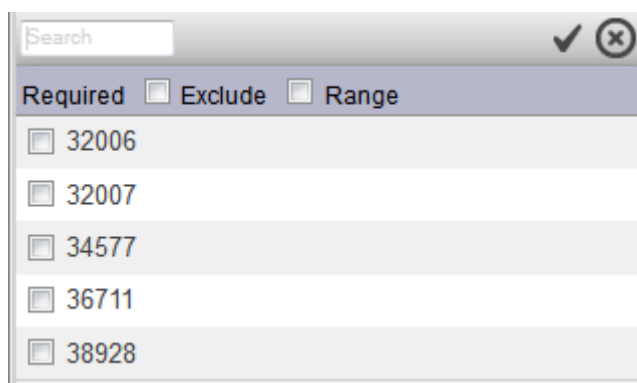
フィルタ・コントロールは、最初は以下のようになります。



このコントロールを使用するには、検索ボタン  を選択します。ほとんどの場合、以下のように表示されます。



このメニューに **[必須]** という単語が含まれている場合、少なくとも 1 つの項目を選択する必要があります。この場合、ドロップダウン・メニューには **[すべて]** の選択肢は表示されません。以下に例を示します。

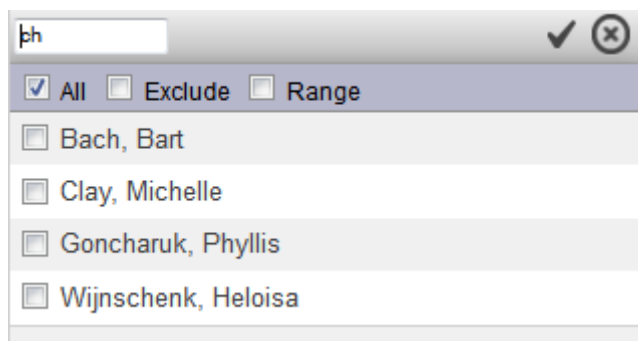


この場合、オプションを選択せずにドロップダウン・メニューを閉じようとする、値が必要であることを示すポップアップ・メッセージが表示されます。

**[範囲]** オプションは、ウィジェットの **データ・ソース** が KPI である場合は使用できません。以下のサブセクションに、他のバリエーションを示します。これらのフィルタ・コントロールでは、その厳密な性質に応じて、以下を行うことができます。


- ・ 検索ボックスに入力し、**Tab** を押します。

これを行った場合、コントロールが更新され、入力した文字列を含むメンバのみが表示されます。以下はその例です。



- ・ 1 つの項目を選択するか、**Ctrl** キーを押しながら複数の項目を選択します。  
場合によっては、複数の項目を選択できないこともあります。
- ・ **[除外]** を選択し、選択した 1 つまたは複数の項目を除外します。
- ・ **[範囲]** を選択して、含めるメンバの範囲を指定します。**[範囲]** を選択すると、このコントロールが変化して、2 つのドロップダウン・リストが表示されます。各ドロップダウン・リストで、メンバを選択します。

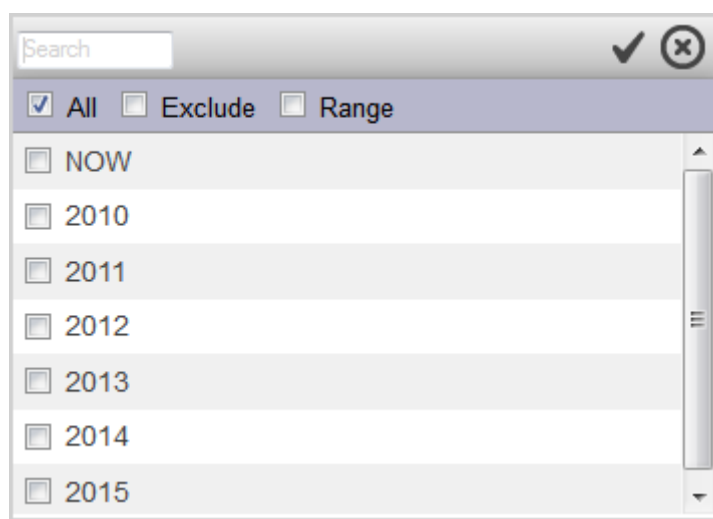
操作を完了したら、チェック・マーク・ボタンを選択して、選択内容を受け入れます。または、[X] ボタンを選択して、選択内容を破棄します。

ウィジェットまたはダッシュボードがすぐに更新されるかどうかは、ダッシュボードの構成によって決まります。標準の更新ボタン  または Refresh や Rerun などのラベルの付いたボタンを探します。このようなボタンがダッシュボードにある場合は、通常、そのボタンを選択してフィルタによる変更を表示する必要があります。

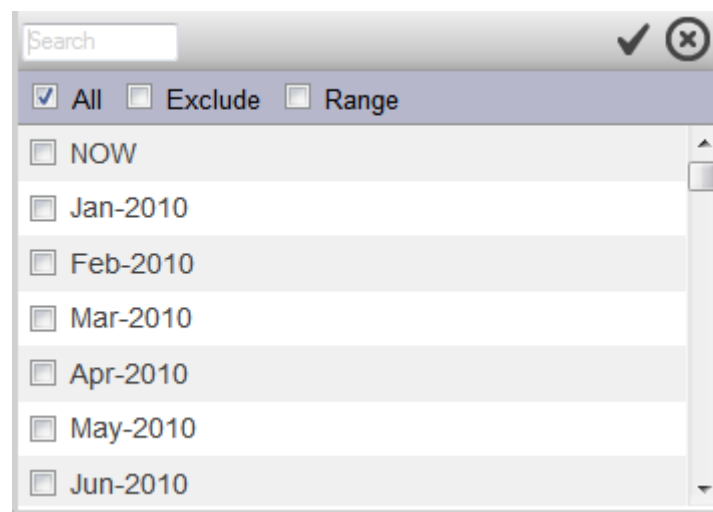
### 4.3.2 時間レベルのフィルタ・コントロール

データ・ソースに応じて、フィルタが時間レベルを参照する場合、このリストには、ピボット・テーブルが実行された日付を常に参照する [NOW] メンバが含まれます (具体的には、[NOW] は、ピボット・テーブルが実行された日付の時間レベルで適用可能なメンバを参照します。年フィルタでは、[NOW] は該当する年を参照し、年と月のフィルタでは、[NOW] は年と月を参照し、以下同様になります)。

例えば、以下の場合を考えてみます。



この場合、[NOW] メンバは、このピボット・テーブルが実行されている現在の年を参照します。別の例を示します。



この場合、[NOW] メンバは、このピボット・テーブルが実行されている現在の年と現在の月を参照します。

注釈 [NOW] オプションは、ウィジェットのデータ・ソースが KPI である場合は使用できません。



日付レベルの処理は異なります。次のサブセクションを参照してください。

一部の種類の時間レベルでは、[NOW] メンバをクリックし、[範囲] をクリックすると、以下が表示されます。

ここで、現在の日付を基準とした日付の範囲を指定できます。そのためには、右側に表示されるボックスに入力します。各ボックスに過去の日付を指定するには、マイナス記号 (-) の後に整数値 n を入力します。このようにすると、過去の日付 n 時間単位が指定されます。ここで時間単位は時間レベルによって決まります (ここでは年)。同様に、未来の日付を指定するには、プラス記号 (+) の後に整数値 n を指定します。

例えば、以下のフィルタでは、5 年前から現在までの日付の範囲が選択されます。

### 4.3.3 日付レベルのフィルタ・コントロール

データ・ソースによっては、フィルタが日付レベルを指す場合、リストではなく以下のコントロールが表示されます。

[範囲] を選択すると、システムは 2 つのカレンダーを並べて表示します。それぞれのカレンダーの下には、フィルタによって [NOW] オプションが表示されます。[NOW] は現在の日付 (つまりダッシュボード・クエリが実行された日付) を表します。以下の図は、[今日] オプションを示しています。

✓ ✕

☐ All ☐ Exclude ☒ Range

From

November						2013	
S	M	T	W	T	F	S	
					1	2	
3	4	5	6	7	8	9	
10	11	12	13	14	15	16	
17	18	19	20	21	22	23	
24	25	26	27	28	29	30	
					«	»	

☒ NOW -365

To

November						2013	
S	M	T	W	T	F	S	
					1	2	
3	4	5	6	7	8	9	
10	11	12	13	14	15	16	
17	18	19	20	21	22	23	
24	25	26	27	28	29	30	
					«	»	

☒ NOW ±days

[NOW] を選択すると、オプションのオフセットを指定して、[NOW] より前または後の整数の日数を指定できます。例えば、「[NOW] - 365」はダッシュボード・クエリが実行された日付より 365 日前の日付を表します。

#### 4.3.4 メジャーのフィルタ・コントロール

フィルタがメジャーを指す場合、リストではなく以下のコントロールが表示されます。

✓ ✕

☒ All

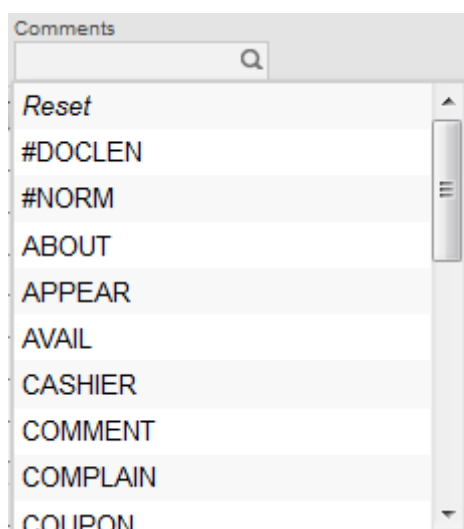
**Test Score**

▼

この場合は、ドロップダウン・リストから演算子を選択して、右側のボックスに値を入力します。

#### 4.3.5 計算ディメンジョンのフィルタ・コントロール

フィルタが計算ディメンジョンを指す場合は、通常のドロップダウン・リストではなく以下のコントロールが表示されます。



この場合は、リスト内の項目を選択するか、[リセット] を選択して、選択項目をクリアできます。

計算ディメンジョンのメンバは、実行時に、通常は SQL SELECT 文によって定義されます。

### 4.3.6 OnClick を使用したフィルタ処理

ウィジェットの行を選択すると、そのウィジェットが別のウィジェットのフィルタ処理を行う場合があります。これは、onclick コントロールの一種です。

例えば、以下のダッシュボードを考えてみます。

	Patient Count			Patient Count	
32006	2,203		Cedar Falls	1,155	
32007	1,065		Centerville	1,055	
34577	3,375		Cypress	1,096	
36711	1,055		Elm Heights	1,147	
38928	2,302		Juniper	1,069	
			Magnolia	1,091	
			Pine	1,188	
			Redwood	1,065	
			Spruce	1,134	

このダッシュボードの場合、左側のウィジェットで郵便番号の行を選択すると、右側のウィジェットが自動的に更新されます。以下はその例です。

	Patient Count			Patient Count	
32006	2,203		Cedar Falls	1,155	
32007	1,065		Elm Heights	1,147	
34577	3,375				
36711	1,055				
38928	2,302				

選択項目をクリアするには、左の列ヘッダ (例えば、[32006] セルの上) を選択します。

### 4.3.7 データ・ソースによる違い

フィルタ・コントロールが含まれるウィジェットの場合に、データ・ソースが KPI のときは、フィルタ・コントロールには以下の一部または全部の制限があります。

- ・ [範囲] オプションは含まれません。
- ・ カレンダー形式では表示できません。
- ・ システムの [NOW] オプションは含まれません。(ただし、同様の動作を行う [NOW] というフィルタ・オプションを KPI に含めることができます。)
- ・ 複数の項目が選択できないこともあります。

## 4.4 フィルタの効果の理解

ほとんどの場合、フィルタはレベルのメンバを包含または除外します。各メンバは、一連のベース・レコードです。したがって、レベル・フィルタは、選択したメンバに対応するレコードを包含または除外します。この動作は、ピボット・テーブルの内容および編成に関係なく同じです。

例えば、以下のダッシュボードを考えてみます。

ZIP		ZIP		ZIP	
<input type="text"/>		<input type="text"/>		<input type="text"/>	
ZIP	Patient Count	City	Patient Count	Age Group	Patient Count
32006	214	Cedar Falls	112	0 to 29	447
32007	112	Centerville	120	30 to 59	387
34577	337	Cypress	105	60+	166
36711	120	Elm Heights	105	Total	1,000
38928	217	Juniper	115		
Total	1,000	Magnolia	127		
		Pine	105		
		Redwood	112		
		Spruce	99		
		Total	1,000		

このダッシュボードには、3 つのピボット・テーブル・ウィジェットが含まれていて、それぞれが異なるピボット・テーブルを表示します。各ピボット・テーブルには、合計行が含まれています。各ウィジェットには、ZIP レベルを使用するレベル・フィルタが含まれています(これはデモ用です。一般的には、[フィルタ] ボックスには、すべてのウィジェットに適用される単一のフィルタが含まれます)。

これらのウィジェットそれぞれで同じ郵便番号を選択するとどうなるか考えてみます。

ZIP		ZIP	ZIP		ZIP
34577		34577		34577	
ZIP	Patient Count	City	Patient Count	Age Group	Patient Count
34577	337	Cypress	105	0 to 29	142
Total	337	Magnolia	127	30 to 59	138
		Pine	105	60+	57
		Total	337	Total	337

最初のウィジェットは、患者を郵便番号別に分類して表示します。このウィジェットには、選択した郵便番号に対応する1つの行が表示されます。このピボット・テーブルは NULL 行を表示するように構成されていないため、他の郵便番号は表示されなくなります。

2 番目のウィジェットは、患者を出身地別に分類して表示します。このウィジェットには、選択した郵便番号に対応する3つの市町村が表示されます。このピボット・テーブルは NULL 行を表示するように構成されていないため、他の市町村は表示されなくなります。

3 番目のウィジェットは、患者を年齢グループ別に分類して表示します。選択した郵便番号にはすべての年齢の患者が含まれているため、このウィジェットには、すべての年齢グループが表示されます。

合計数が各ピボット・テーブルで同じであることがわかります。

いずれの場合も、郵便番号を選択すると、住所がその郵便番号内である患者のみが選択されます。

メジャー・フィルタは、レベルのメンバを指すのではなく、メジャーの値を指します。以下はその例です。

Test Score

メジャー・フィルタは、各ベース・レコードを調べ、指定したメジャーの値に応じて、これを包含または除外します。例えば、以下のダッシュボードを考えてみます。

Test Score		Test Score	
<input type="text"/>		<input type="text"/>	
Patient Group	Patient Count	Favorite Color	Patient Count
Group A	402	None	221
Group B	398	Blue	129
None	200	Green	137
Total	1,000	Orange	133
		Purple	127
		Red	107
		Yellow	146
		Total	1,000

両方のウィジェットで同じように Test Score でフィルタ処理するとどうなるか考えてみます。

Test Score		Test Score	
<input type="text" value="≥65"/>		<input type="text" value="≥65"/>	
Patient Group	Patient Count	Favorite Color	Patient Count
Group A	299	None	118
Group B	268	Blue	74
Total	567	Green	76
		Orange	78
		Purple	76
		Red	65
		Yellow	80
		Total	567

最初のウィジェットは、患者を患者グループ別に分類して表示します。このウィジェットは、グループ **None** (テスト・スコアのない患者を含むグループ) の患者を表示しなくなります。このピボット・テーブルは **NULL** 行を表示するように構成されていないため、この行は失われます。

2 番目のウィジェットは、患者を好きな色別に分類して表示します。これらすべてのグループに、選択したスコア以上の患者がいるため、このウィジェットには、これまで表示されていた同じ行がすべて表示されます。

合計数が各ピボット・テーブルで同じであることがわかります。

## 4.5 データの並べ替え

ピボット・テーブル・ウィジェットでは、任意のデータ列に表示されている値で行を並べ替えできます。そのためには、列ヘッダをダブルクリックします。以下はその例です。

Age Group-	Age Bucket	Patient Count ▼	Avg Allergy Count
60+	80+	41	1.12
60+	70 to 79	62	0.97
60+	60 to 69	86	1
30 to 59	50 to 59	106	0.94
0 to 29	20 to 29	116	1.06
0 to 29	10 to 19	135	1.10
30 to 59	40 to 49	139	1.18
0 to 29	0 to 9	149	1.08
30 to 59	30 to 39	166	1.04

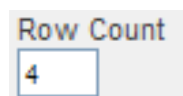
最初に列ヘッダをダブルクリックすると、上記の例のように、その列の値でテーブルが昇順に並べ替えられます。

列ヘッダをもう一度ダブルクリックすると、テーブルが降順に並べ替えられます。3 回目のダブルクリックを行うと、並べ替えが解除され、既定の順序に戻ります。

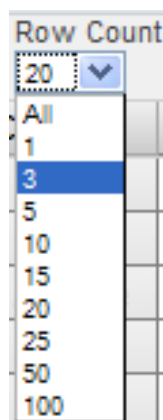
行または列の並べ替えの制御に使用するドロップダウン・リストが表示される場合もあります。[減少]、[増加]、または[ソート] (並べ替えの削除) を選択します。この場合、このコントロールは、最初のデータ列または最初のデータ行の値を適切に考慮します。

## 4.6 行数または列数の指定

行または列の表示数を指定できるウィジェットもあります。以下はその例です。



別の例を示します。



必要に応じて、値を入力または選択します。

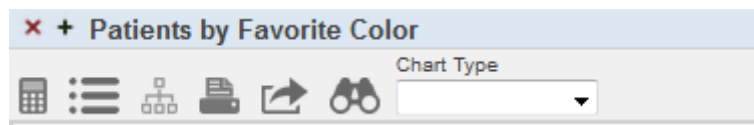
## 4.7 表示タイプの変更

テーブルとグラフの間で表示形式を切り替えることができるウィジェットもあります。この操作には、以下のボタンを使用します。

ボタン	動作
	ウィジェットをテーブル形式で表示します。
	ウィジェットをグラフ形式で表示します。

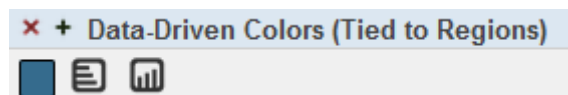
グラフの場合、表示されるグラフ項目は最初の 100 個のみです。

またはウィジェットにグラフ・タイプを選択できるコントロールが含まれる場合があります。以下はその例です。



この場合、ドロップダウン・リストからオプションを選択します。選択した形式でウィジェットが再表示されます。

またはウィジェットに、特定のタイプに切り替えることができるボタンが含まれる場合があります。以下はその例です。



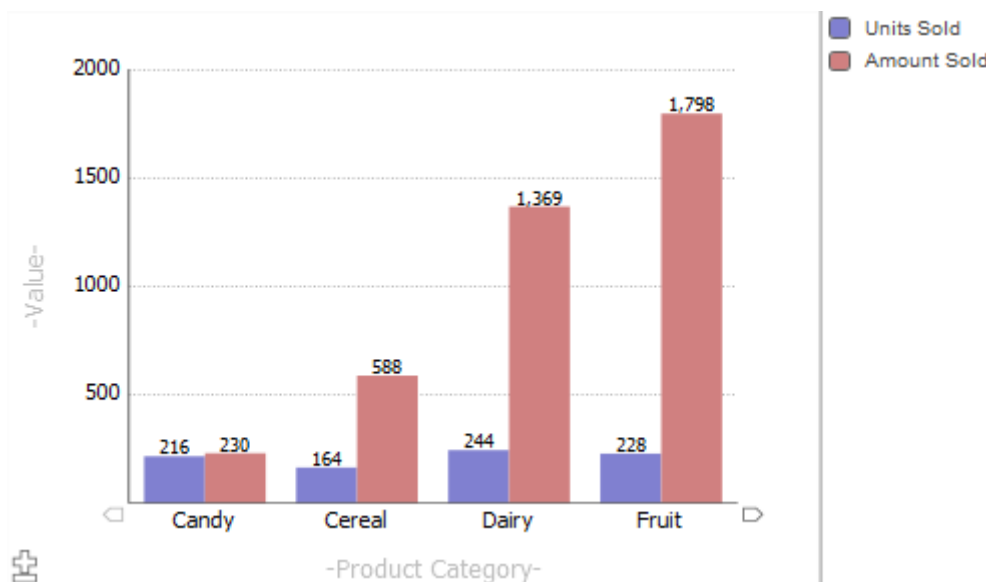
この場合、ボタンをクリックすると、選択した形式でウィジェットが再表示されます。ここに示したボタンは、左から右の順に、ピボット・テーブル、横棒グラフ、縦棒グラフの形式でデータを表示します。他のグラフ・タイプ用に同様のボタンがあります。

## 4.8 グラフ・ズーム機能の使用法

ある種のグラフでは、ズーム・インまたはズーム・アウトすることで、同時に表示するデータ量を増減できます。この操作を実行するには、左下隅にあるズーム・イン・ボタン (+) を選択します。



グラフに表示されるデータが少なくなり、グラフを左右にスクロールするための矢印ボタンが表示されます。以下はその例です。



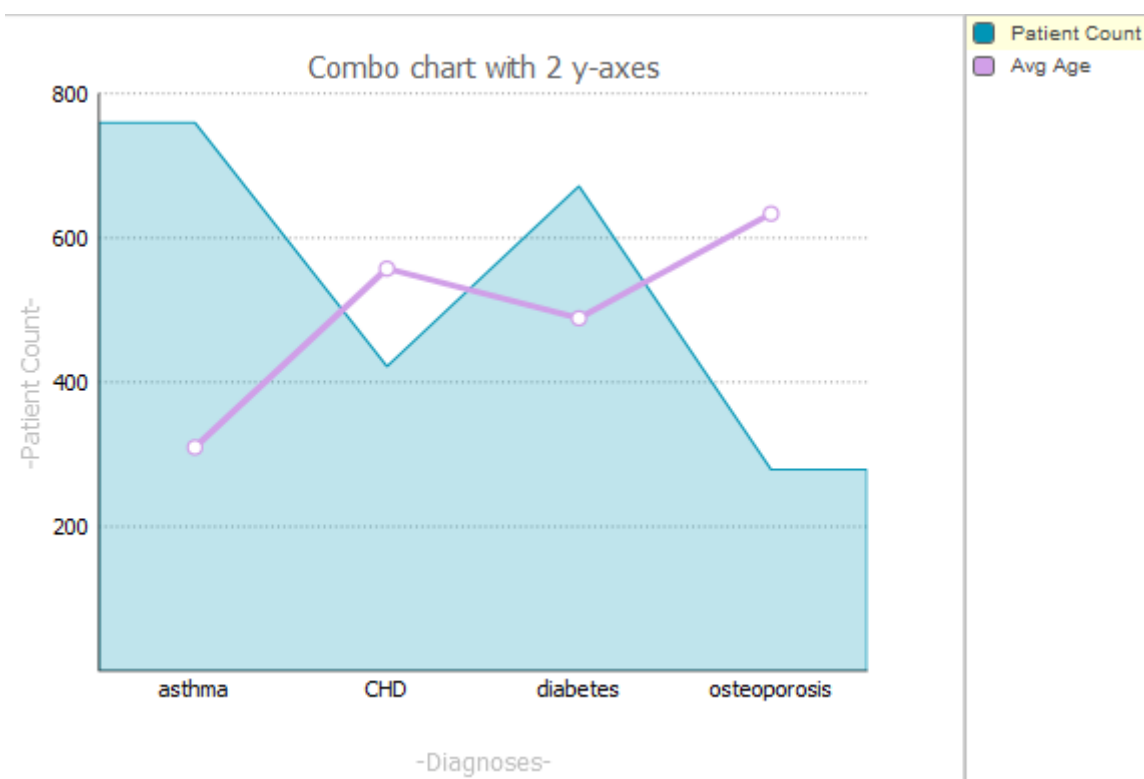
## 4.9 コンボ・グラフの使用法

コンボ・グラフには、他のグラフでは使用できない 2 つの機能があります。

- ・ 複数の y 軸を含めることができます。
- ・ 異なるメジャーに対して、個別の表示タイプを使用できます。

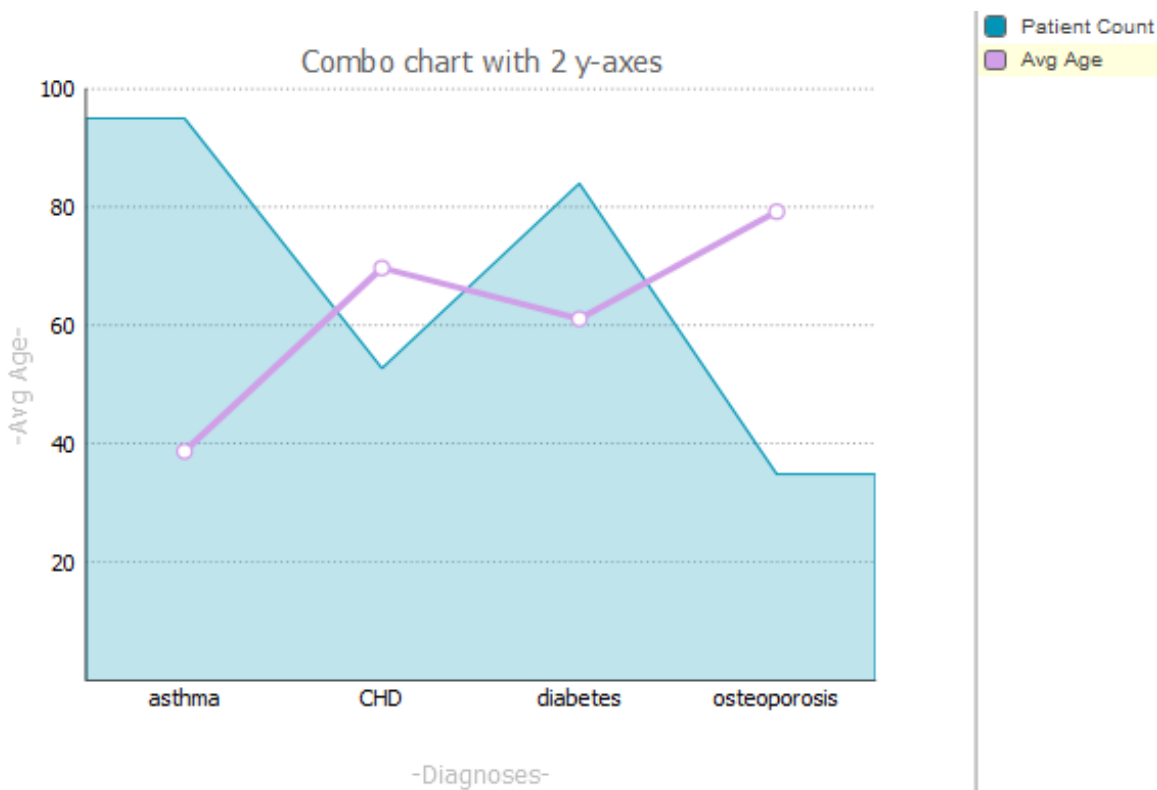
以下のグラフは、これら両方の機能の用例です。






y 軸には、Patient Count というラベルが付いています。Patient Count メジャーを示す棒線は、この軸の値に合わせて拡大縮小されます。これに対して、Avg Enc Count を示す棒線は、y 軸との相関関係がありません。これらの棒線は、相互に正しい比率を維持していますが、全体がグラフ内に収まるように拡大縮小されています。

コンボ・グラフを使用するには、キーに含まれる一連の名前の横にあるボックスを選択します。例えば、Avg Enc Count の横にあるボックスを選択すると、y 軸のラベルが以下のように変化します。



## 4.10 リストの表示

ウィジェットにリスト・ボタン  がある場合は、選択したコンテキストに応じた最下位レベルのデータを示すリストを表示できます。リスト・ボタンは、テキスト (Toggle Details など) 付きのボタンとして表示される場合もあります。

リストを表示するには、以下のように操作します。

- 1 つ以上の項目を選択します。
  - ・ テーブルの場合は、1 つ以上のセルを選択します。  
複数のセルを選択するには、**Shift** キーを押しながらセルを選択します。  
行全体を選択するには、左側の行ラベルを選択します。列全体を選択するには、列ヘッダを選択します。  
リスト・オプションは、合計行または合計列のセルには使用できません。
  - ・ グラフの場合は、1 つのグラフ項目を選択します。例えば、棒グラフの棒を 1 つ選択します。

選択された 1 つまたは複数の項目が強調表示されます。


2. リスト・ボタン  を選択します。


ウィジェットは、選択されたセルの最下位レベルのレコードをリストする表示に切り替わります。以下はその例です。

<input type="checkbox"/>	#	PatientID	Age	Gender	Home City	Test Score
<input type="checkbox"/>	1	SUBJ_100631	0	F	Elm Heights	50
<input type="checkbox"/>	2	SUBJ_100781	0	F	Redwood	78
<input type="checkbox"/>	3	SUBJ_100820	0	F	Magnolia	89
<input type="checkbox"/>	4	SUBJ_100966	0	F	Cypress	91
<input type="checkbox"/>	5	SUBJ_101274	0	F	Pine	
<input type="checkbox"/>	6	SUBJ_101340	0	F	Redwood	
<input type="checkbox"/>	7	SUBJ_101466	0	F	Magnolia	81
<input type="checkbox"/>	8	SUBJ_101532	0	F	Pine	67
<input type="checkbox"/>	9	SUBJ_101587	0	F	Elm Heights	77
<input type="checkbox"/>	10	SUBJ_102327	0	F	Redwood	79


100を超える行がある場合は、すべての行をページ単位でスクロールするために使用できるボタンが下部領域に表示されます。

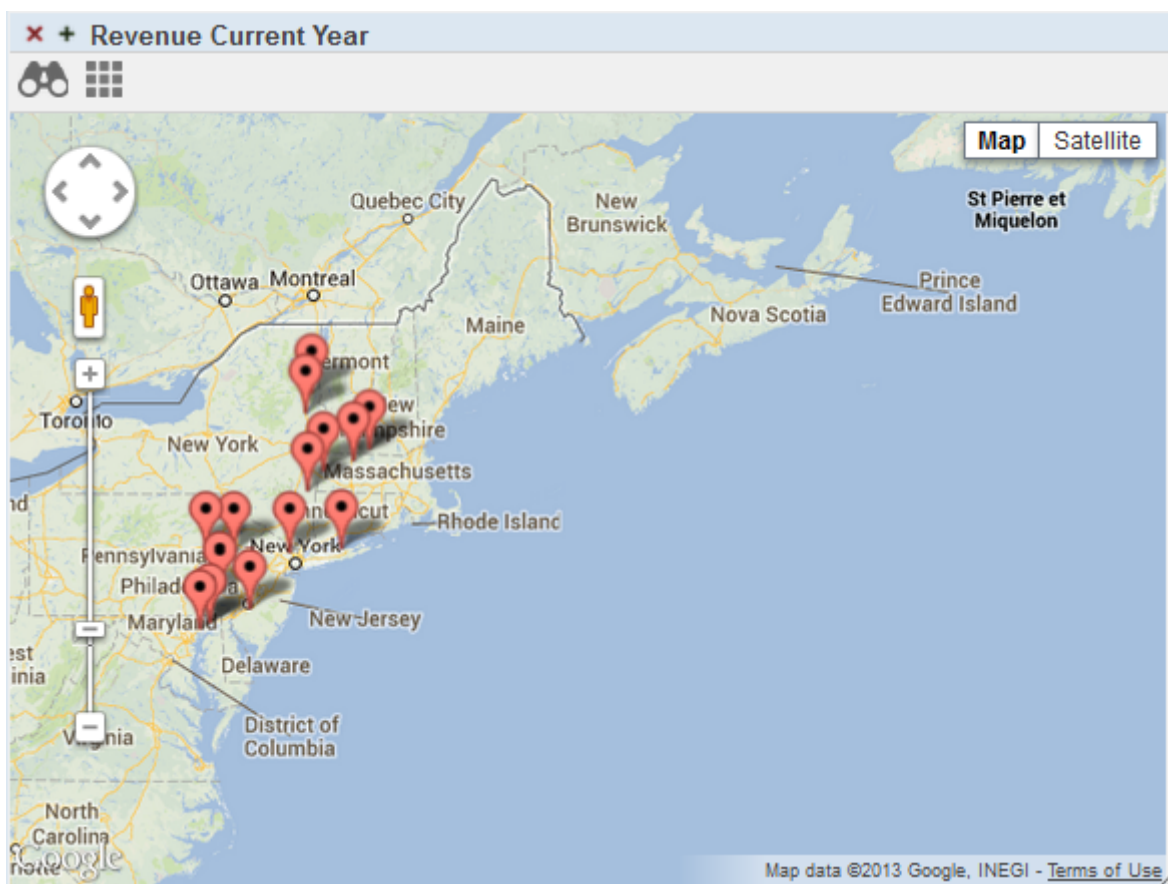
チェック・ボックスを使用して行を選択すると、それらの行を入力として使用するアクション (特にカスタム・アクション) を実行できます。アクションは、通常は、ウィジェットの上部のボタンとして表示されます。

ピボット・テーブルで NLP (自然言語処理) メジャーを含むサブジェクト領域を使用している場合は、NLP メジャー値  ボタンを使用できる可能性があります。詳細は、“[NLP メジャー値の表示](#)”を参照してください。

3. 元の表示に切り替えるには、[テーブル] ボタン  を選択します。

### 4.10.1 マップ・リストのバリエーション


ウィジェットにマップ・リスト・ボタン  が表示される場合があります。これを選択すると、場所を示すマップが表示されます。例えば、HoleFoods の[サンプル](#)では以下のように表示されます。











この場合、表示された場所は、選択したレコードの営業施設の場所です。

マップ・リストは、地理リストとも呼ばれます。

## 4.10.2 NLP メジャー値の表示

NLP メジャーを含むサブジェクト領域を使用するピボット・テーブルのリストを表示する場合、NLP メジャー値  ボタンが表示される列がリストに含まれる可能性があります。以下はその例です。

StateCode	City	AirportName	CoordsLatitude	CoordsLongitude	Report	R
GA	HOGANSVILLE	NEWNAN-COWETA COUNTY				Ir
AZ	MESA	FALCON FIELD	33.2739	-111.4342		C
AZ	Phoenix	Phoenix Deer Valley	33.413	-112.0456		T
FL	Naples	Naples Municipal	26.0915	-81.4653		C
FL	Melbourne	Melbourne International	28.061	-80.3845		C
AL	Sylacauga	Merkel Sylacagua	33.1031	-86.1833		C
OH	Swanton	Toledo Express	41.35	-83.4748		T
CA	TRUCKEE	TRUCKEE PALM	39.4640	-120.1557		C

このボタンを選択すると、以下のようなページが表示されます。

**Record #1**

On January 2, 1999, at 1618 eastern standard time, a Piper PA-34-200, N5016T, collided with the ground during an emergency landing near Hogansville, Georgia. The airplane was operated by the registered owner/pilot under the provisions of Title 14 CFR Part 91, and instrument flight rules (IFR). Instrument meteorological conditions prevailed at the accident site and an IFR flight plan was filed for the personal flight. The commercial pilot received minor injuries and the three passengers received no injuries. The airplane sustained substantial damage. The flight departed Manassas, Virginia, at 1035 the same day, destined for Columbus Metropolitan Airport, Columbus, Georgia. According to the pilot, he received a full weather briefing from the Leesburg, Virginia, Flight Service Station at 0430 on the morning of the flight. Additional weather information was obtained enroute via weather broadcasts over navigational radios, and from automated surface observations. While approximately 30 miles from Columbus Metropolitan Airport (CSG), the pilot was informed of a lowered ceiling and thunderstorm over the destination airport. He immediately notified Air Traffic Control (ATC) of his low fuel condition and was vectored to LaGrange Airport (LGC). Once stabilized on the ILS approach for LGC, the pilot realized he was on the back course and a missed approach was executed. The pilot was then given vectors towards Newnan-Coweta County Airport (CCO) which was reported "in the clear". According to the pilot, an emergency was declared to Atlanta Approach Control several times but no response was received. After starting a descent, the pilot reported that "the left engine ran out of fuel", and quit. The pilot feathered the left propeller, and he increased power on the right engine. Visual contact with the ground was made about 400 feet AGL. During the emergency landing, the airplane collided with the top of a tall pine tree. The airplane landed with the gear and flaps retracted on a hilly power line right-of-way. According to the Piper Aircraft PA-34 Information Manual, N5016T has a usable fuel capacity of 93 U.S. gallons and seven gallons unusable. The pilot reported that he departed with 100 gallons of fuel on board. While operating the airplane at a gross weight of 4000 pounds and 65% power, fuel consumption is 18.3 gallons per hour for both engines, or maximum flight duration of 5.08 hours. N5016T had flown 5.72 hours when the accident occurred. The pilot did not flight plan or make a refueling stop for this flight. No mechanical problems, with the airplane, were reported by the pilot. ...

Summary length:    
number of sentences to display

Highlight ☒ nothing ☐ dictionary terms ☐ dominant terms

Dictionaries ☒ Maneuvres ☒ Weather conditions ☒ Pilot skills ☒ Injuries

Dominant ☒ concepts ☐ relations ☒ CRCs ☒ paths

このページには、そのレコードの NLP メジャーの全テキストが（既定で）表示されます。

このページでは、次の操作を実行できます。

- ・ タブを選択して、別のレコードのテキストを表示します。
- ・ このテキストの最も関連性のある文を選択します。そのためには、[サマリー長] に整数を入力し、[サマリー] を選択します。

Analytics エンジンの判断に基づいて、関連性の高い順に、指定した数の文が表示されます。

- ・ Analytics エンジンの判断に基づいて、特定の種類の要素をハイライト表示します。既定では、何もハイライト表示されません。

以下の点に注意してください。

- ・ デクシオナリ用語は、システムにロードされている特定のデクシオナリに存在する単語または語句です。一般にデクシオナリは、複数の同義語を相互に関連付けるマッピングを定義します。システムに存在する利用可能なデクシオナリの中から、考慮するデクシオナリを 1 つまたは複数選択します。これらは実装に固有です。
- ・ 優位性の高い用語とは、Analytics エンジンの判断に基づいて、このテキストの中で優位性の高いテキストの単位です。その選択方法を理解するには、テキスト分析に関連するいくつかの概念を確認する必要があります。

テキスト分析の主要な概念は、エンティティです。Analytics エンジンは、指定されたテキストを処理し、その中のエンティティを識別します。エンティティとは、テキストの最小限の論理ユニット（論理単位）です。これは、単語または単語のグループです。clear skies と clear sky は、エンティティの例です。Analytics エンジン言語モデルでは、関係と概念の 2 種類のエンティティが識別されます。関係とは、2 つの概念の関係を指定することでそれらの概念を結合する単語や単語のグループです。関係は、通常は動詞ですが、必ずしもそうとは限りません。概念とは、

関係によって関連付けられる単語や単語のグループです。概念は、通常は名詞または名詞句ですが、必ずしもそうとは限りません。

また、ページでは、優位性の高い CRC とパスをハイライト表示できます。CRC は、概念 - 関係 - 概念のシーケンスです。パスは、長めのシーケンスです。

## 4.11 ドリル・ダウン

下位レベルにドリル・ダウンできるウィジェットもあります。InterSystems IRIS Business Intelligence モデルでは、レベルは階層内に含まれ、階層はディメンジョン内に含まれます。1 つの階層に複数のレベルがある場合もあります。このような場合、上位レベルのメンバには下位レベルのメンバが 1 つ以上含まれているため、ドリル・ダウンできます。つまり、上位レベルのメンバから下位レベルのメンバに移動することができます。これは、[ダブルクリック](#)または[ドリルダウン・ボタン](#)(使用可能な場合)を使用して行うことができます。

合計行からドリル・ダウンすることはできません。手動で入力した MDX クエリをピボット・テーブルで使用している場合も、ドリルダウン操作を実行できないことに注意してください(これは一般的なケースではありません)。

### 4.11.1 ダブルクリックによるドリル・ダウン

ピボット・テーブルの行が上位レベルのメンバを表している場合、メンバ名をダブルクリックして下位レベルのメンバを表示することができます。例えば、以下のようなピボット・テーブル・ウィジェットがあるとします。

Decade	Patient Count	Avg Enc Count
1910s	81	76.28
1920s	205	62.04
1930s	517	56.34
1940s	709	51.23
1950s	1,066	44.68
1960s	1,469	39.53
1970s	1,544	33.74
1980s	1,315	26.62
1990s	1,514	20.56
2000s	1,436	14.46
2010s	144	10.48
All Patients	10,000	33.05

1930s のセルをダブルクリックすると、ウィジェットには以下のように表示されます。

Decade	Patient Count	Avg Enc Count
« 1930	31	64.42
« 1931	51	65.69
« 1932	40	67.40
« 1933	62	57.82
« 1934	47	45.45
« 1935	43	50.44
« 1936	60	55.38
« 1937	72	47.31
« 1938	52	61
« 1939	59	55.80

任意の行で << 文字を選択すると、ウィジェットは前の状態に戻ります。

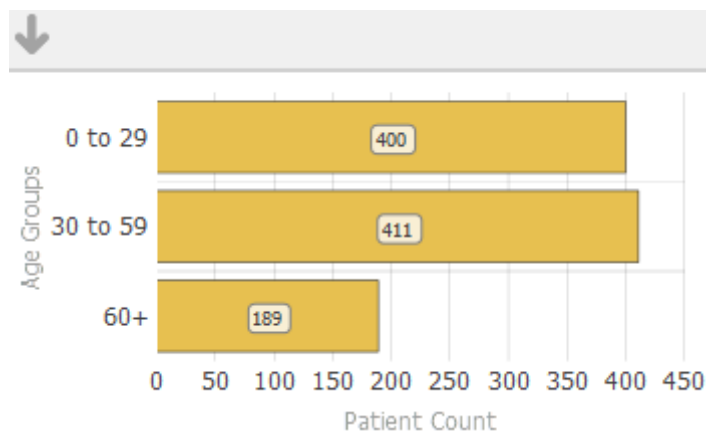
この種類のドリルダウン操作はグラフでは使用できません。


### 4.11.2 ドリルダウン・ボタンの使用

ウィジェットにドリルダウン・ボタン  がある場合は、このボタンを使用して階層をドリル・ダウンすることもできます。この場合、ドリル・ダウンの手順は以下のとおりです。

1. ピボット・テーブルで行を選択します。または、ウィジェットがグラフ形式の場合は、グラフ項目を選択します。

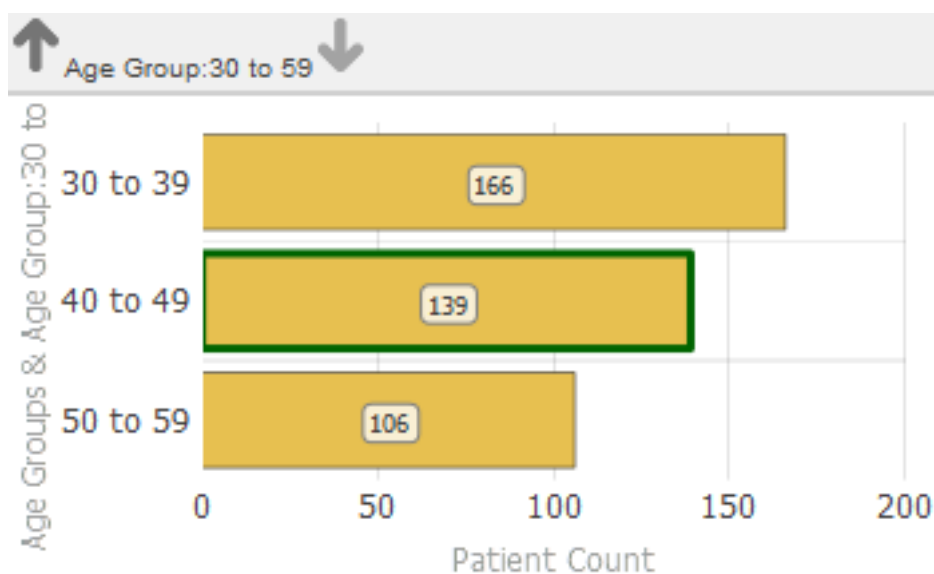
以下はその例です。




2. ドリルダウン・ボタン  を選択します。

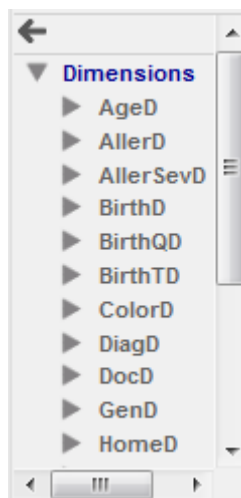
選択した項目に関連付けられている下位レベルのメンバのデータが表示されます。以下はその例です。





## 4.12 ディメンジョン・リストの使用法

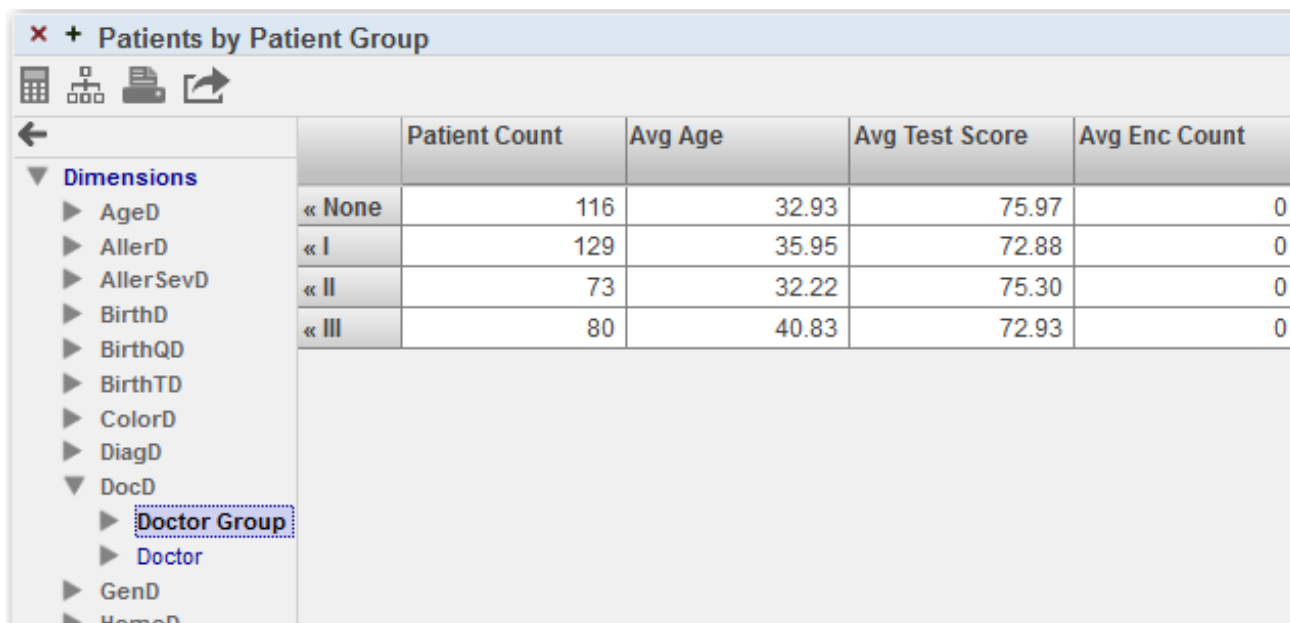
ウィジェットにディメンジョン・リスト・ボタン  があり、追加のドリル・オプションが提供される場合があります。このボタンを選択すると、ピボット・テーブルの左側にディメンジョンのリストが表示されます。以下はその例です。



このリストがキューブで定義したディメンジョンと同じかどうかは、これを作成した方法によって異なります。このリストを使用するには、以下の操作を実行します。

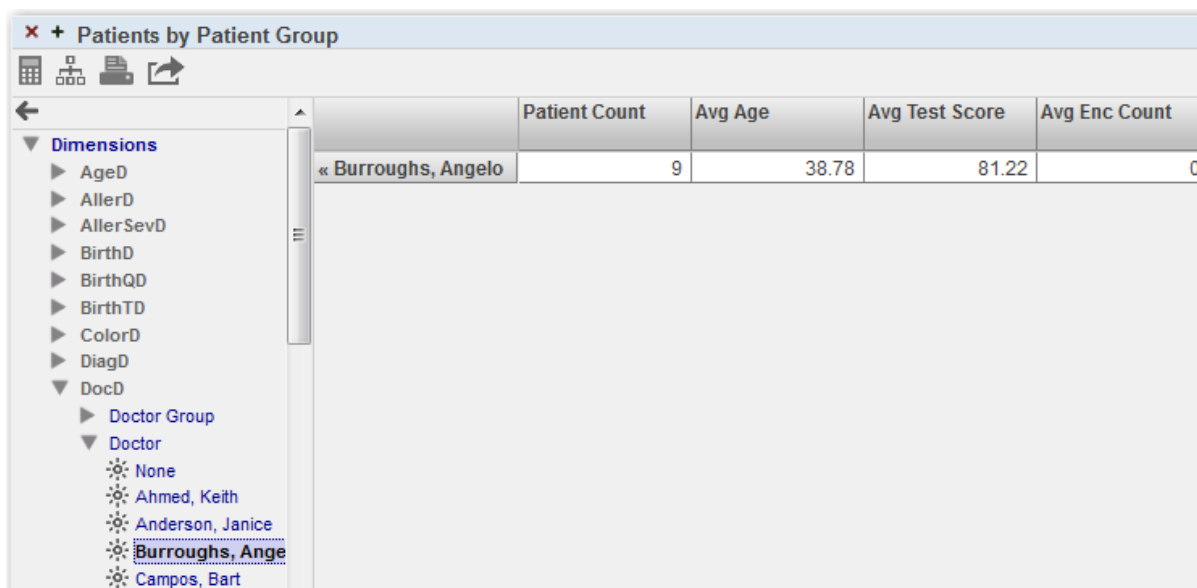
1. 必要に応じてフォルダを展開します。
2. リストから任意の行のグレーの部分にドラッグ・アンド・ドロップします。

以下はその例です。




	Patient Count	Avg Age	Avg Test Score	Avg Enc Count
« None	116	32.93	75.97	0
« I	129	35.95	72.88	0
« II	73	32.22	75.30	0
« III	80	40.83	72.93	0

別の例を示します。



	Patient Count	Avg Age	Avg Test Score	Avg Enc Count
« Burroughs, Angelo	9	38.78	81.22	0

元に戻すには、ディメンジョン・リストの上にあるリセット・ボタン  を選択するか、ピボット・テーブルの [◀] ボタンを選択します。

## 4.13 別のダッシュボードへのドリル操作

ピボット・テーブル・ウィジェットには、セルをダブルクリックして別のダッシュボードを表示できるものがあります。新しく開いたダッシュボードは、ダブルクリックしたコンテキストに応じてフィルタ処理されます。例えば、最初のダッシュボードに以下のウィジェットが含まれているとします。




Gender	Patient Count	Avg Age
Female	5,108	36.79
Male	4,892	34.57
All Patients	10,000	35.71

このピボット・テーブル・ウィジェットの構成方法によっては、データ・セルをダブルクリックしたときに、システムは以下のよう別ダッシュボードを表示することがあります。

- ・ [Female] 行をダブルクリックすると、新しく開いたダッシュボードは女性患者でフィルタ処理されます。
- ・ [Male] 行をダブルクリックすると、新しく開いたダッシュボードは男性患者でフィルタ処理されます。
- ・ [All Patients] 行をダブルクリックすると、新しく開いたダッシュボードは性別でフィルタ処理されません。


## 4.14 ウィジェットの更新

ウィジェットの表示を更新するには、更新ボタン  を選択します。

このボタンは、テキスト付きのボタンとして表示されることもあります。ボタン上のテキストとしては、Refresh や Redisplay などの適切な文字列が考えられます。


指定の間隔で自動的に更新するウィジェットもあります。この場合、更新ボタンがないこともあります。

## 4.15 ダッシュボードの再ロード

ダッシュボード自体を再ロードするには、ダッシュボードの再ロード・ボタン  を選択します。

このボタンは、テキスト付きのボタンとして表示されることもあります。ボタン上のテキストとしては、Reload などの適切な文字列が考えられます。

## 4.16 Microsoft Excel へのデータのエクスポート

データはピボット・テーブル・ウィジェットから Microsoft Excel にエクスポートできますが、その他のタイプのウィジェットからはエクスポートできません。エクスポートするには、ウィジェットの Excel へのエクスポート・ボタン  を選択します。

ウィジェットに現在表示されているすべてのデータを含む Excel ファイルが生成されます。ファイル名は、%DeepSee.UI.MDXExcel.zen.xls、%DeepSee.UI.MDXExcel.zen-1.xls、またはこれらに類似の名前になります。ブラウザは、オペレーティング・システム、マシン上に構成されているファイル・タイプ、ブラウザ、およびブラウザの設定に応じて、以下のいずれかを実行します。

- ・ Excel (または選択した他のプログラム) でファイルを開きます。  
ブラウザのオプションを設定して、使用するプログラムを指定します。例えば、Firefox では、[ツール]→[オプション]→[アプリケーション] を選択します。このオプションでは、ブラウザがこのプログラムでファイルを開くかどうか、またファイルハード・ドライブに保存することをユーザに求めるかどうかを指定することもできます。

- ・ Excel (または、前の箇条書きで説明したような、選択した他のプログラム) でファイルを開くように求めます。
- ・ 現在のブラウザ・ウィンドウ内でこのファイルを開きます。

これは、Windows Vista より前の Windows オペレーティング・システムの既定の動作です。この動作は、[ファイルの種類] ダイアログ・ボックスで変更できます (このダイアログ・ボックスには、オペレーティング・システムのバージョンに応じて [マイ コンピュータ]→[ツール]→[フォルダ オプション] または [マイ コンピュータ]→[表示]→[オプション] からアクセスします)。


このオプションは、Windows Vista 以降の Windows オペレーティング・システムでは使用できません。

- ・ ファイルをハード・ドライブに保存するように求めます。
- ・ ファイルをハード・ドライブに自動的に保存します。

Excel にエクスポートする場合、250000 行を超える行はエクスポートできないことに注意してください。また、サブジェクト領域で外部テーブルを使用する場合、リストの制限は 1000 行になります。

**注釈** 数値のフォーマット設定が指定されていない場合、数値は既定で整数としてフォーマットされます (実際の値は Excel で提供されるので、適切に表示されるように、必要に応じてフォーマット設定を変更できます)。モデルの定義またはピボット・テーブルの定義で数値のフォーマット設定が指定されている場合は、そのフォーマット設定が Excel で使用されます。

## 4.17 データの印刷

ダッシュボードには、1 つまたは複数の印刷ボタン  が含まれている場合があります。ダッシュボードの構成方法に応じて、印刷ボタンは 1 つのウィジェットのみまたは複数のウィジェットを印刷します。いずれの場合も、このボタンを使用すると、システムによって .pdf ファイルが生成され、既定のブラウザで開かれます (出力が複数のウィジェットを表す場合、そのファイルにはウィジェットごとのページが含まれます)。このファイルはブラウザのオプションを使用して印刷することも、ダウンロードして後から印刷することもできます。

ダウンロードする場合、ファイルはブラウザの既定のダウンロード・ディレクトリに保存されます。システムには別の場所を指定する機能はありません。

ピボット・テーブルが極端に広い場合は、そのピボット・テーブルの .pdf ファイルを生成することはできません。

### 4.17.1 印刷の要件

[印刷] オプションを実行すると、InterSystems IRIS® データ・プラットフォームは Java を使用してサードパーティの PDF レンダリング・ツールを呼び出します。これはユーザのローカル・マシンに Java (具体的には JRE : Java ランタイム環境) が必要であることを意味します。要件に関する詳細は、“[PDF 出力向け InterSystems IRIS の構成](#)”を参照してください。

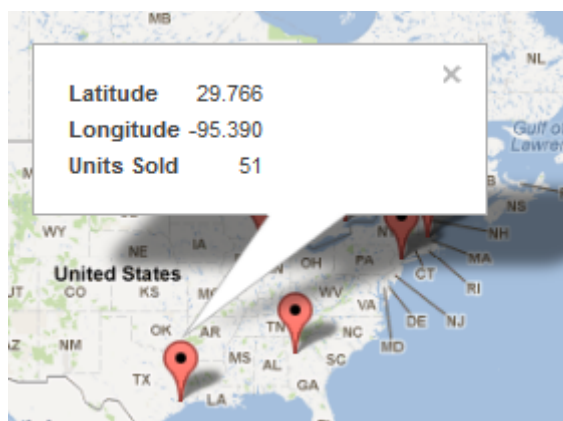
## 4.18 マップ・ウィジェットの使用

マップ・ウィジェットには、他のウィジェットには存在しないオプション・セットが含まれています。



マップ・ウィジェットでは、以下の操作を実行できます。

- ・ 表示をマップ・ビューと衛星写真ビューの間で切り替えます。そのためには、[マップ/衛星写真] ボタンを選択します。
- ・ 別の領域を表示します。そのためには、左選択ボタンを押したまま、カーソルをドラッグします。
- ・ ズーム・インまたはズーム・アウトします。そのためには、ズーム・バーのスライダをドラッグします。
- ・ データ・ポイントの詳細を表示します。そのためには、データ・ポイントを選択します。詳細データが存在する場合は、ウィジェットによって、ポップアップ・ウィンドウが表示されます。以下はその例です。



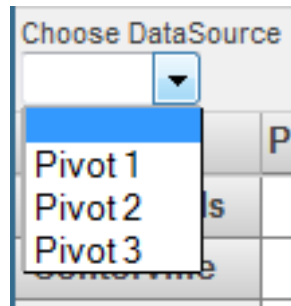
このウィンドウを閉じるには、右上の [X] を選択します。

## 4.19 その他のタスク

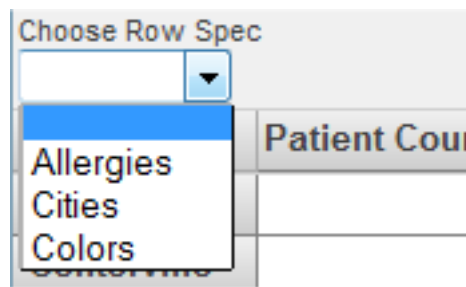
ダッシュボードでは、以下の操作を実行できる場合もあります。

- ・ 任意のウィジェットを再構成します。そのためには、ダッシュボードの左側の [ ] ボタン (使用可能な場合) を選択してダッシュボード・エディタを開きます。次に、「[ダッシュボードの作成](#)」の説明に従って、変更を加えます。

- 別の方法でウィジェットを再定義する項目を選択します。これには多数のオプションがあります。例えば、表示対象にする別のピボット変数を選択できるようにするドロップダウン・リストをウィジェットに含めることができます。



また、行や列に表示される内容を制御するドロップダウン・リストを含めることもできます。



- ミニ・アナライザを表示して、ウィジェットに表示されるピボット・テーブルをローカルに変更します。ミニ・アナライザ・

ボタン  (このボタンがある場合) を選択して、“[アナライザの使用法](#)” の説明に従って変更を加えます。

変更は他のウィジェット、ダッシュボード、およびユーザには影響しません。

変更内容を保存し、ミニ・アナライザを終了するには、ミニ・アナライザで [OK] を選択します。また、変更内容を破棄して、元のピボット・テーブルをリストアするには、[リセット] を選択します。

- カスタム・アクションを実行します。[フィルタ] ボックスおよびウィジェットには、カスタム・アクションを実行するための追加のボタンが含まれている場合があります。

場合によっては、ウィジェットで最初に 1 つまたは複数の行を選択することが必要になることがあります。そのためには、以下の操作を実行します。

- 標準的なピボット・テーブル・ウィジェットでは、1 つの行を選択するには、目的の行を選択します。複数の行を選択するには、SHIFT キーを押しながら該当する行を選択します。
- リストを表示しているピボット・テーブル・ウィジェットでは、行の左側にあるチェック・ボックスを選択します。

カスタム・アクションでは、以下のいずれかを実行できます。

- 同じウィンドウで異なるダッシュボードを開きます。
- 同じウィンドウまたは新しいウィンドウで URL を開きます。
- サーバ側コードを実行します。
- ダッシュボードの更新などのクライアント側コマンドを実行します。

## 4.20 変更の保存

表示しているダッシュボードの現在の状態を保存するには、[メニュー]→[自分の設定の保存]を選択します。このオプションを使用すると、現在のダッシュボードのローカル保存が実行されます。各ウィジェットのサイズと配置、すべてのフィルタの現在の状態、およびダッシュボード内のその他のコントロールが保存されます。これらの変更は、変更を行ったユーザ用にのみ保存され、他のユーザには表示されません。

[メニュー]→[自分の設定のクリア]を選択すると、このダッシュボードの設定が削除されます。このオプションを使用した後、ブラウザの更新ボタンを使用すると、ベースの状態のダッシュボードが表示されます。

すべてのユーザに変更を表示するように、ベースとなるダッシュボードの設計自体を保存するオプションもあります ("[ダッシュボードの作成](#)" を参照)。これらのオプションは、適切な権限がある場合にのみ使用できます。

参考のために、以下のテーブルに、ダッシュボードの各種変更を保存する方法を示します。


ダッシュボードの変更	自分の設定として保存可能か	ダッシュボードの設計として保存可能か
ウィジェットの最大化または最小化	可	可
ウィジェットの移動またはサイズ変更	可	可
ダッシュボード・デザイナーによる変更	不可	可
ミニ・アナライザを使用して、ウィジェットで使用されるピボット・テーブルをローカルに変更	可	不可
フィルタの値またはその他のウィジェット・コントロールの値の指定	可	不可
その他の変更（並べ替えやドリル・ダウンなど）	不可	不可

ダッシュボードの設計を保存すると、そのダッシュボードの自分の設定はクリアされます。ただし、ミニ・アナライザを使用して行った変更は例外です。




# 5

## [ピボット分析] ウィンドウの使用

ここでは、[ピボット分析] ウィンドウの使用方法について説明します。このウィンドウには、[ピボット・テーブル・ウィジェット](#)で分析ボタン  を使用してアクセスできます。  
“[BI サンプルのアクセス方法](#)” も参照してください。

### 5.1 [ピボット分析] ウィンドウの使用

システムには、各種の専門的な分析に使用できる分析ウィンドウが用意されています。どの場合でも、まず 1 つ以上のセルを選択すると、分析ではそれらのセルに関連付けられた最下位レベルのデータが考慮されます。このウィンドウにアクセスする手順は以下のとおりです。

- 1 つまたは複数の行のデータ・セルを選択します。  
複数のセルを選択するには、**Shift** キーを押しながらセルを選択します。  
行全体を選択するには、左側の行ラベルを選択します。列全体を選択するには、列ヘッダを選択します。  
分析オプションは、合計行または合計列のセルには使用できません。
- 分析ボタン  を選択します。  
ウィジェットの構成方法に応じて、分析オプションの選択肢が表示されるか、選択肢なしでオプションの 1 つが表示されます。
- (該当する場合) [分析オプション] で、以下のいずれかを選択します。
  - ・ [クラスタ] – [クラスタ分析](#)を実行します。
  - ・ [分布] – [分布分析](#)を実行します。
  - ・ [回帰] – [回帰分析](#)を実行します。  
または、[iKnow プラグイン] を選択し、以下のいずれかを選択します。
  - ・ [コンテンツ分析] – [コンテンツ分析](#)を実行します。
  - ・ [エンティティ分析] – [エンティティ分析](#)を実行します。

[iKnow プラグイン] オプションは、キューブに NLP メジャーが含まれる場合にのみ適用可能です。

以下のセクションで詳細を説明します。

注釈 このウィンドウは、アナライザでも使用できます。

## 5.2 クラスタ分析

[ピボット分析] ウィンドウの背景情報は、“[ピボット分析] ウィンドウの使用” を参照してください。

クラスタ分析またはクラスタリングは、サブセット (クラスタと呼ばれる) への一連の観測値の割り当てであるため、同じクラスタ内の観測値はある意味で似ています。クラスタリングは、教師なし学習方法の1つであり、機械学習、データ・マイニング、パターン認識、画像解析、情報検索、生命情報科学など、多くの分野で使用される統計データ分析の一般的な手法です。

クラスタ分析では、ページの上部領域は以下ようになります。

Measures To Include in Clustering:

- ☒ Age
- ☒ Allergy Count
- ☒ Avg Age
- ☒ Avg Allergy Count
- ☒ Avg Enc Count
- ☒ Avg Test Score
- ☒ Encounter Count
- ☒ Test Score

Input (X) Measure:

Response (Y) Measure:

Algorithm:  Sample Size:  Number of Clusters:

Items: 1,080 X: [:] Y: [:]

このページを使用する手順は以下のとおりです。

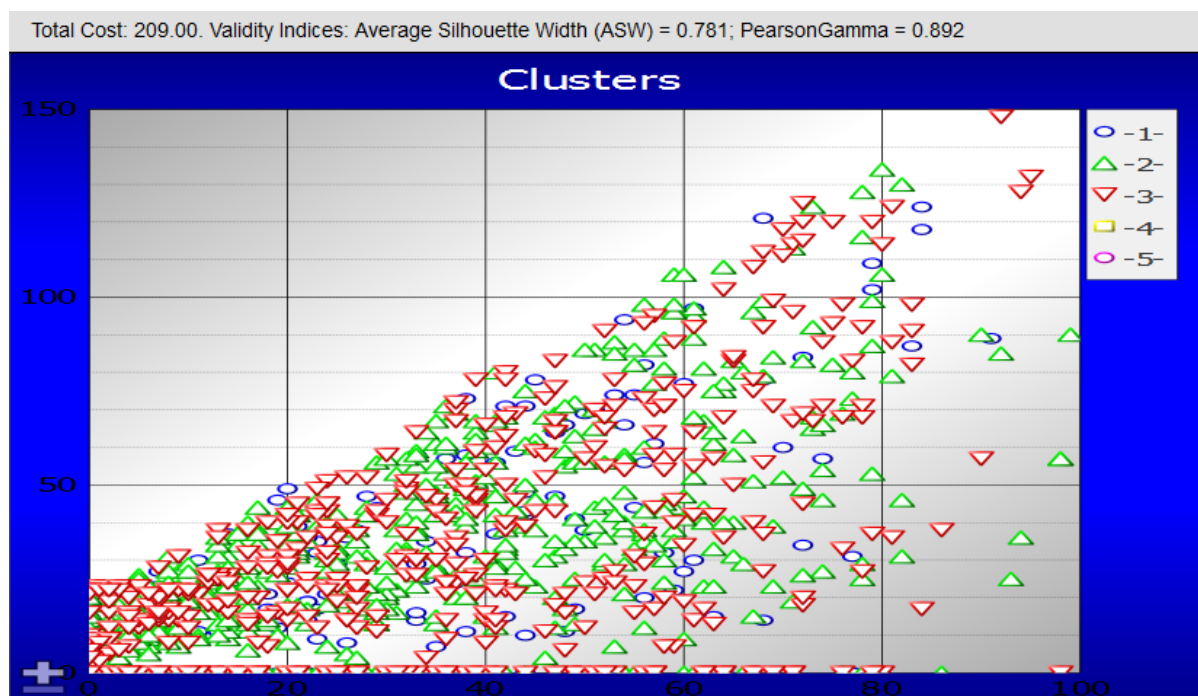
1. ページの上部領域で、分析の詳細を指定します。

詳細はこのドキュメントの対象範囲ではありません。読者がクラスタ分析に精通していることを前提にしています。

2. **[実行]** を選択します。

ページの下部領域に結果が表示されます。以下はその例です。





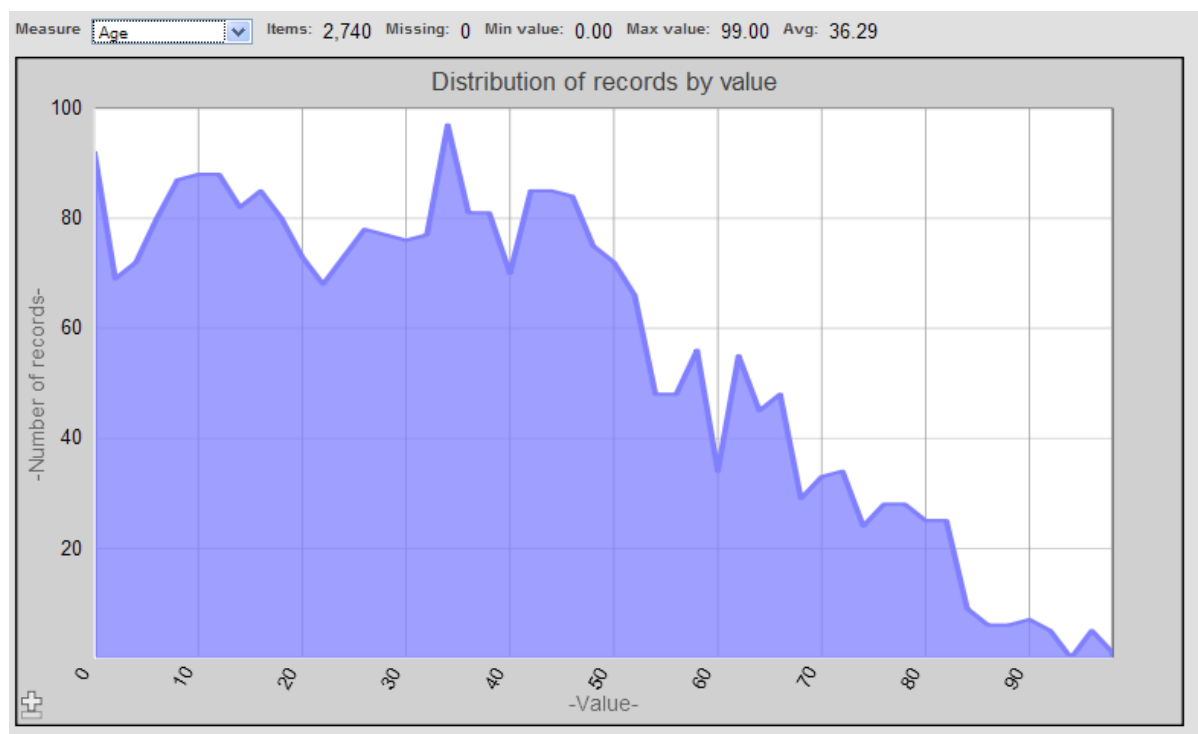
クラスタ分析の一般的な情報については、Wikipedia の当該ページ ([https://en.wikipedia.org/wiki/Cluster\\_analysis](https://en.wikipedia.org/wiki/Cluster_analysis)) を参照してください。また、このトピックに関する多くの書籍も入手可能です。

## 5.3 分布分析

[ピボット分析] ウィンドウの背景情報は、“[ピボット分析] ウィンドウの使用” を参照してください。

分布分析では、一連のレコード全体で、特定の測定におけるさまざまな値の出現数が示されます。

分布分析の場合は、以下のように表示されます。



このページを使用するには、メジャーを選択します（この例では、Age）。

横軸には、選択されているセルにおけるこのメジャーの値がすべて表示されます。縦軸には、メジャー値ごとに、値のあるソース・レコード（選択されているセル）の数が表示されます。

このページの上部には、以下の値が表示されます。

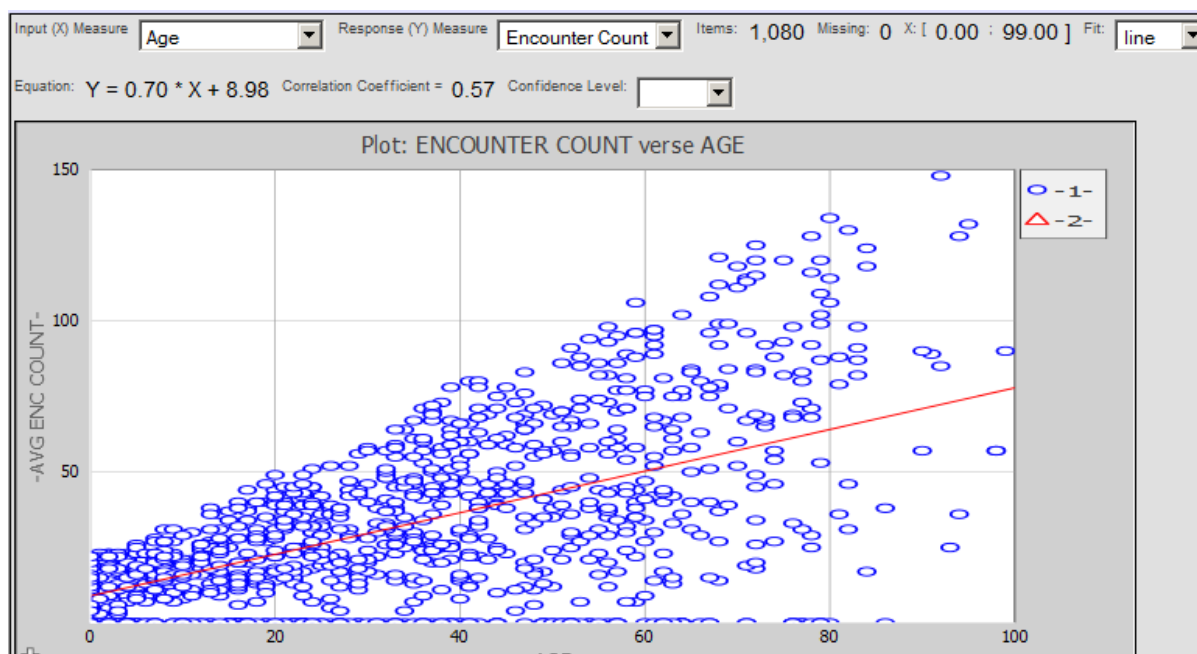
- ・ **[アイテム]** – ピボット・テーブルの選択されているセルのソース・レコードの数。
- ・ **[存在しません]** – このメジャーで値がないソース・レコード（選択されているセル）の数。
- ・ **[最小値]** – これらのソース・レコードにおけるこのメジャーの最小値。
- ・ **[最大値]** – これらのソース・レコードにおけるこのメジャーの最大値。
- ・ **[平均]** – これらの値の平均。

## 5.4 回帰分析

[ピボット分析] ウィンドウの背景情報は、“[\[ピボット分析\] ウィンドウの使用](#)”を参照してください。

回帰分析では、独立変数と従属変数間のリレーションシップの決定を試みます（InterSystems IRIS Business Intelligence 回帰分析は 1 つの独立変数のみを考慮します）。

回帰分析の場合は、以下のように表示されます。



このページを使用するには、以下の詳細を指定します。

- ・ **【入力 (X) メジャー】**－ 独立変数として扱うメジャーを選択します (この例では、Age など)。これらの値は、横軸で表示されます。
- ・ **【応答 (Y) メジャー】**－ 最初のメジャーに依存すると思われるメジャーを選択します (この例では Encounter Count など)。これらの値は、縦軸で表示されます。

この操作によって、選択されているセルに関連付けられた最下位レベルのレコードごとのデータ・ポイントがこのページに表示されます。

- ・ **【フィット】**－ 実行するフィッティングのタイプを選択します。
  - － **【線形】**－ 線形回帰を実行します。
  - － **【指数】**－ 指数回帰を実行します。
  - － **【対数】**－ 対数回帰を実行します。
  - － **【べき乗】**－ べき乗回帰を実行します。
- ・ **【信頼水準】**－ 必要に応じて、決定される値のエラー・バーの計算時に使用する信頼水準を選択します。

いずれの場合も、システムによって、Y を X の関数として予測する方程式の詳細が決定され、予測された X-Y 曲線がこのページ上にプロットされます。グラフの上の領域には、フィットの詳細が表示されます。例えば、線形回帰の場合は以下のように表示されます。

Equation:  $Y = (0.70 \pm 0.059) * X + (8.98 \pm 2.51)$  Correlation Coefficient = 0.57

また、別の例として、指数回帰の場合は以下のような詳細がこのページに表示されます。

Equation:  $Y = 3.99 * \exp(0.024 * X)$  Correlation Coefficient = 0.19

回帰分析の一般的な情報については、Wikipedia の当該ページ ([https://en.wikipedia.org/wiki/Regression\\_analysis](https://en.wikipedia.org/wiki/Regression_analysis)) を参照してください。また、このトピックに関する多くの書籍も入手可能です。

## 5.5 Text Analytics コンテンツ分析

[ピボット分析] ウィンドウの背景情報は、“[ピボット分析] ウィンドウの使用” を参照してください。

iKnow コンテンツ分析オプションでは、最も一般的な、および最も一般的でない、構造化されていないテキスト値に関する情報を表示します。この分析オプションは、キューブに NLP メジャーが含まれる場合にのみ適用可能です。

コンテンツ分析の場合は、以下のように表示されます。

Measure

Display listing

Report

Most typical facts

	EventId	EventDate	CountryCode	StateCode	AircraftModel	Score
🔍	20021204X05552	2002-11-28 00:00:00	USA	NC	150L	255192
🔍	20050519X00638	2005-04-26 00:00:00	USA	AK	180	248106
🔍	20021115X05472	2002-11-07 00:00:00	USA	OK	J35	237502
🔍	20030103X00010	2002-12-23 00:00:00	USA	AZ	R22 Beta	234611
🔍	20010626X01255	2001-06-24 00:00:00	USA	AK	S-1B2	233878

Most breaking facts

	EventId	EventDate	CountryCode	StateCode	AircraftModel	Score
🔍	20001206X02438	1994-10-10 00:00:00	USA	TX	269C	11582
🔍	20091103X85152	2009-11-02 00:00:00	USA	MI	PA-28-180	1463
🔍	20001212X21503	2000-07-09 00:00:00	USA	CA	E-3	708
🔍	20010110X00083	2000-12-20 00:00:00	USA	AK	C46A	514
🔍	20050913X01440	2005-08-28 00:00:00	USA	FL	8GCBC	453

[最も一般的なファクト] セクションには、Analytics エンジンの判断に基づいて、最も一般的なコンテンツを持つレコードがリストされます。[最も例外的なファクト] セクションには、最も例外的なコンテンツを持つレコードがリストされます。例外的なコンテンツとは、そのソースの最も優位性の高いエンティティがソース・グループの最も優位性の高い要素に最も類似していないコンテンツです。詳細は、“優位性と近似” を参照してください。

各テーブルにはレコードがリストされ、選択した詳細リストにリストされているフィールドが表示されます。

このページでは、次の操作を実行できます。

- 指定されたレコードの構造化されていないテキスト全体を表示します。そのためには、そのレコードに表示される虫眼鏡のアイコンを選択します。
- 別の NLP メジャーを選択して分析します。そのためには、[メジャー] の項目を選択します。

NLP メジャーは、他の種類のメジャーと異なり、他のメジャーと同じ方法で使用することはできません。自由形式のテキスト・レポートなど、構造化されていないテキストが含まれるソース値に基づいています。ここでの分析対象として NLP メジャーを選択した場合、それらのソース値に対する Analytics エンジンの実行結果を検証することになります。

- 別の詳細リストを選択して使用します。そのためには、[リストを表示] の項目を選択します。

ShortListing という名前のリスト (定義されている場合) またはサブジェクト領域の既定のリストが最初に表示されます。

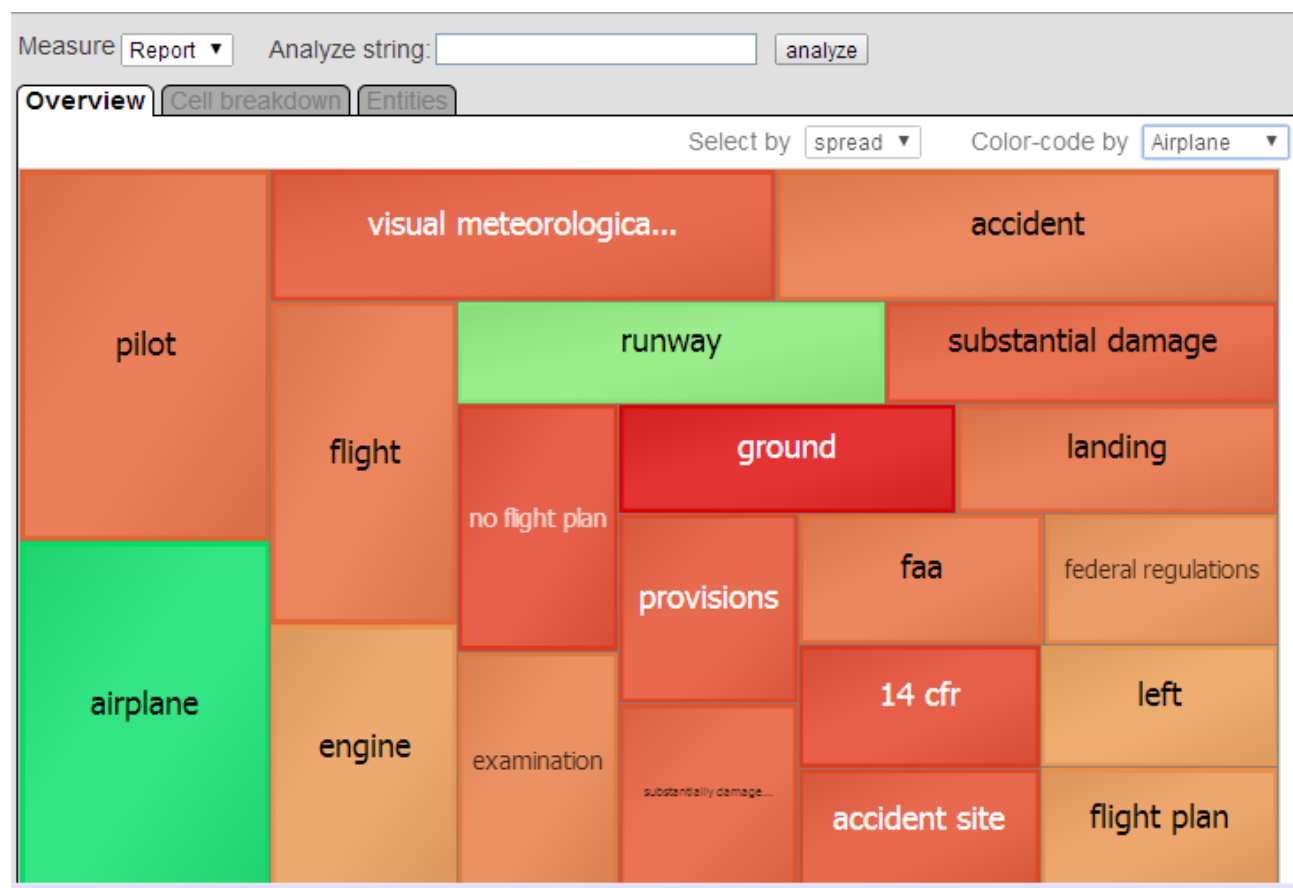
この例では、Aviation Events の [サンプル](#) を使用しています。


## 5.6 Text Analytics エンティティ分析

[ピボット分析] ウィンドウの背景情報は、"[\[ピボット分析\] ウィンドウの使用](#)" を参照してください。

iKnow エンティティ分析オプションでは、構造化されていないテキスト値のエンティティに関する情報を表示します。この分析オプションは、キューブに NLP メジャーが含まれる場合にのみ適用可能です。

エンティティ分析の場合は、以下のように表示されます。



このページには 3 つのタブがあり、分析ボタン  を選択する前に選択したピボット・テーブルのセルに関連付けられているレコードの情報が表示されます。これらのタブは以下のように連携して機能します。

- ・ **[概要]** タブには、それらのレコードの中から最も一般的なエンティティ 20 件の情報が表示されます。**[選択基準]** オプションを使用すると、これらのエンティティをシステムが選択する方法を制御できます。詳細は、[最初のサブセクション](#)を参照してください。

グラフの中の長方形を選択するとさらに詳細が表示されます。次の箇条書き項目を参照してください。


- ・ **[セル詳細]** タブには、**[概要]** タブで選択した長方形に対して、そのエンティティが、元のピボット・テーブルのセルの中でどのように分布しているかが表示されます。[2 番目のサブセクション](#)を参照してください。

グラフの中の棒を選択するとさらに詳細が表示されます。次の箇条書き項目を参照してください。

- ・ **[エンティティ]** タブには、**[セル詳細]** タブで選択した棒に対して関連するエンティティが表示されます。[3 番目のサブセクション](#)を参照してください。

この例では、**BI サンプル**の Aviation Events キューブ・デモを使用しています。

## 5.6.1 [概要] タブ

**[概要]** タブには、分析ボタン  を選択する前に選択したピボット・テーブルのセルに関連付けられているレコードの中から、上位エンティティに関する情報が表示されます。このタブのグラフには、選択したメトリックに応じて、上位 20 件のエンティティごとに 1 つの四角形が表示されます。

### 5.6.1.1 上位エンティティの選択

システムでの上位エンティティの選択方法を決定するには、**[選択基準]** ドロップダウン・リストからメトリックを選択します。このオプションは以下のとおりです。

- ・ 既定の **[分散]** は、その分散（エンティティが出現するファクトの合計数）を基準に上位エンティティをリストします。
- ・ **[BM25]** は、頻度の計算アルゴリズムを使用して、計算された BM25 スコアを基準に上位エンティティを降順でリストします。Okapi BM25 の基準をベースとしたアルゴリズムを使用してこのスコアは計算され、文書の長さを考慮しながらエンティティの TF (Term Frequency : 単語の出現頻度) とその IDF (Inverse Document Frequency : 逆文書頻度) を組み合わせます。
- ・ **[TFIDF]** は、頻度の計算アルゴリズムを使用して、計算された TFIDF スコアを基準に上位エンティティを降順でリストします。エンティティの用語頻度 (TF : Term Frequency) を逆文書頻度 (IDF : Inverse Document Frequency) と組み合わせることで、このスコアを計算します。用語頻度では、単一ソース内でのエンティティの出現頻度をカウントします。IDF はソースのコレクションに出現するエンティティの回数をカウントし、この全体的な頻度によって TF を小さくします。したがって、少ないパーセンテージのソースにおいて複数回出現するエンティティは、TFIDF スコアが高くなります。大きいパーセンテージのソースにおいて複数回出現するエンティティは、TFIDF スコアが低くなります。

注釈 **[BM25]** および **[TFIDF]** オプションでは計算が集中するため、完了に時間がかかることがあります。

### 5.6.1.2 色分け

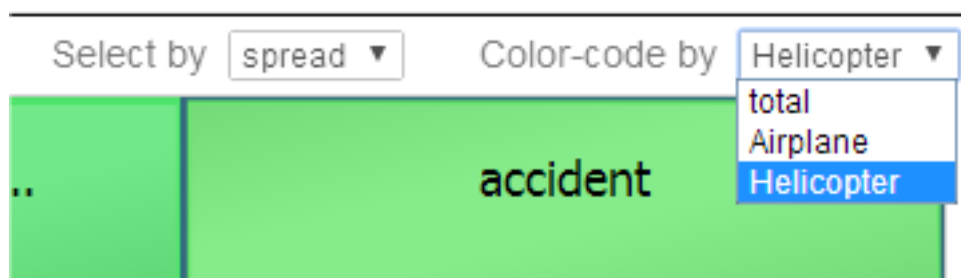
このグラフ内の色は、対象エンティティの Naive Bayes の確率に基づき、指定されたピボット・テーブルのセルに対して、それぞれのエンティティが指標としてどの程度活用されているかを示します。これは、以下のように行われます。

- ・ ピボット・テーブルで最初に選択したセルが 1 つだけの場合、グラフの色は、そのピボット・テーブルのセルの指標として、それぞれのエンティティが他のすべてのレコードと比較してどの程度活用されているかを示します。
- ・ ピボット・テーブルで最初に選択したセルが複数ある場合は、グラフに **[色分け基準]** ドロップダウン・リストが表示され、**[すべて]** オプションを含めて、ピボット・テーブルのセルの名前がリストされます。

この場合、グラフの色は、**[色分け基準]** ドロップダウン・リストに現在表示されているピボット・テーブルのセルの指標として、それぞれのエンティティが最初に選択した他のすべてのセルのレコードと比較してどの程度活用されているかを示します。

比較基準に別のピボット・テーブルのセルを使用するには、**[色分け基準]** ドロップダウン・リストからオプションを選択します。以下はその例です。

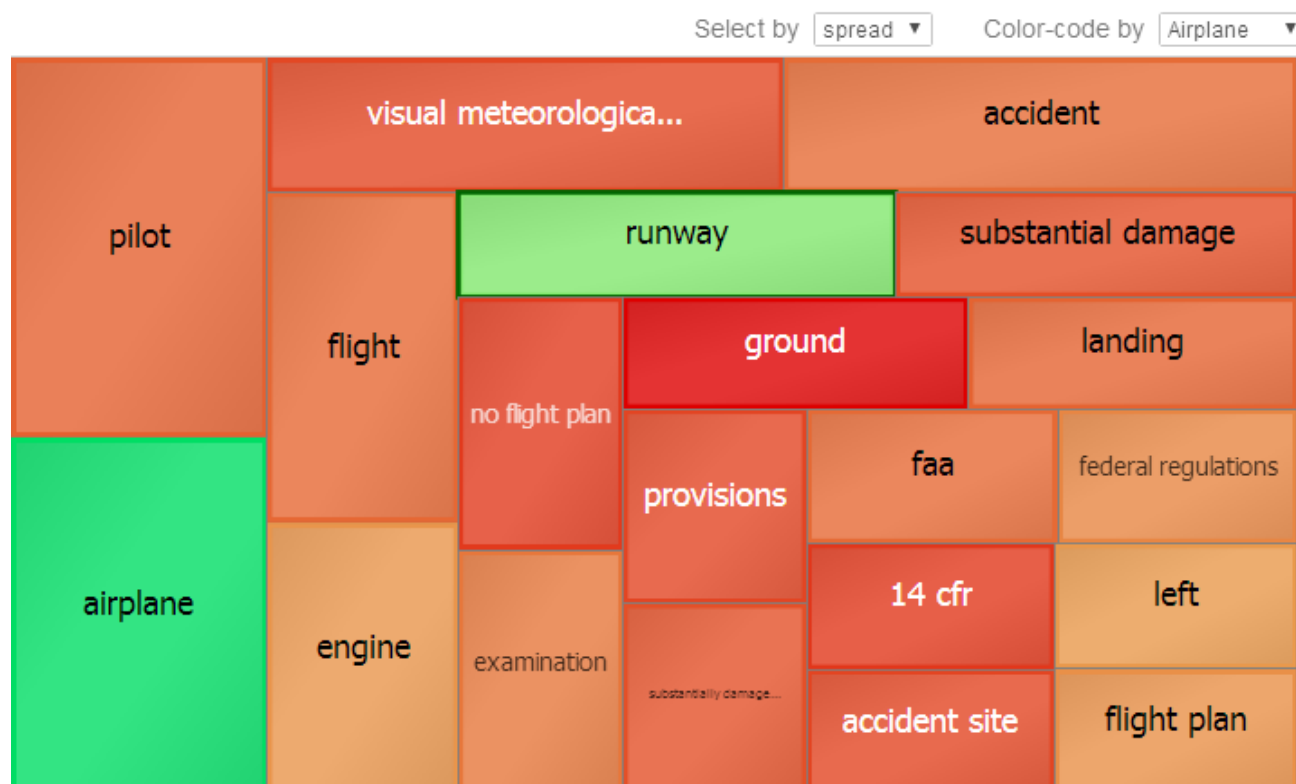




【すべて】オプションは、最初に選択したすべてのセルを 1 つのグループとして処理します。

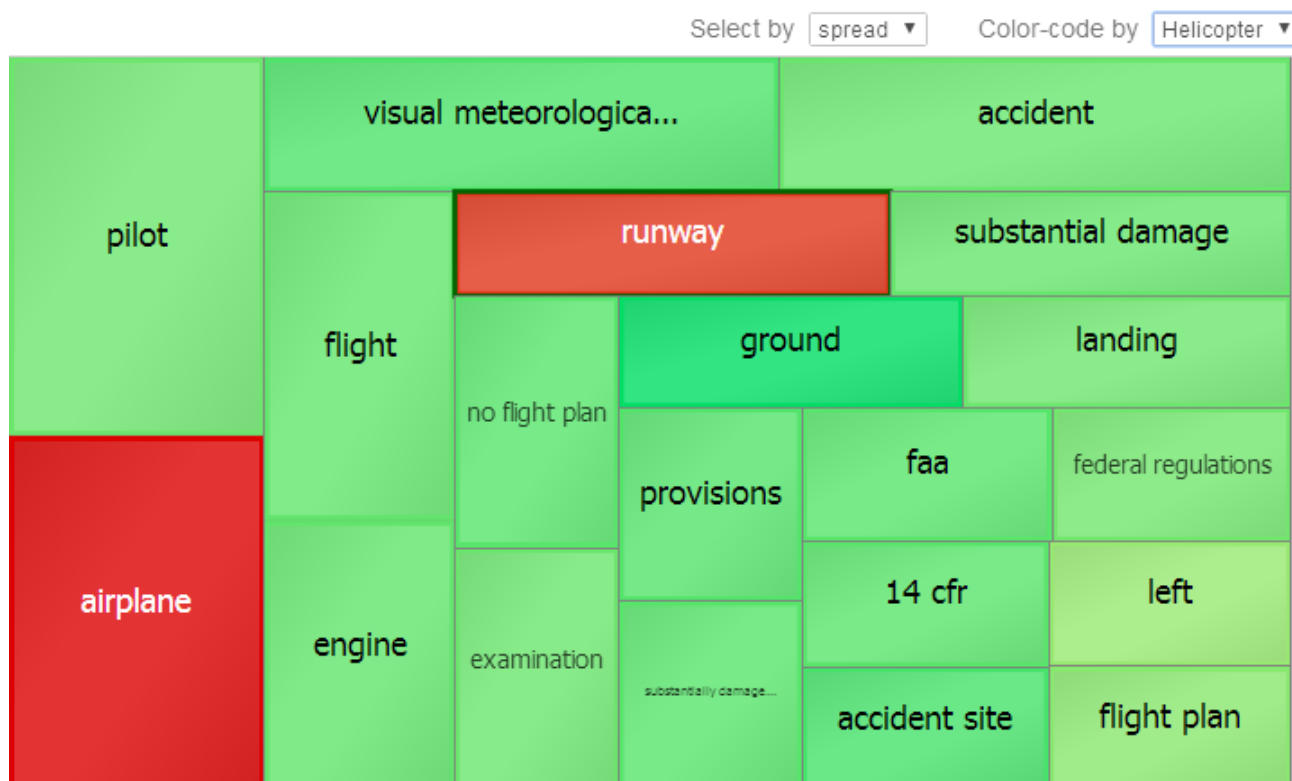
緑色は一般に有効な指標を示し、赤色は無効な指標を示します。濃い緑色はその用語が非常に有効な指標であることを示し、薄い緑色は有効な指標であることを示します。一方、薄い赤色は無効な指標であることを示し、濃い赤色は非常に無効な指標であることを示します。すべてのソースに共通しているために無効な指標となるエンティティもあり、そのためソースのカテゴリを区別できない場合があることに注意してください。

例えば、飛行機の種類を行に表示するピボット・テーブルを使用するとします。分析の最初の手順として、ピボット・テーブルのセル [ ] と [ ] を選択します。[ ] で色分けすると、グラフは次のようになります。



エンティティ [ ] および [ ] がピボット・テーブルのセル [ ] の有効な指標であることに注目してください。他のエンティティ (特に [ ]) は無効な指標です。

一方、[ ] で色分けするとグラフは次のようになります。



ここでは、エンティティ [ ] および [ ] がピボット・テーブルのセル [ ] の無効な指標であることが示されています。他のエンティティ (特に [ ]) は有効な指標です。

### 5.6.1.3 その他のオプション

[概要] タブでは、次の操作も実行できます。

- 別の NLP メジャーを選択して分析します。そのためには、[メジャー] の項目を選択します。  
NLP メジャーは、他の種類のメジャーと異っており、他のメジャーと同じ方法で使用することはできません。自由形式のテキスト・レポートなど、構造化されていないテキストが含まれるソース値に基づいています。ここでの分析対象として NLP メジャーを選択した場合、それらのソース値に対する Analytics エンジンの実行結果を検証することになります。
- 分析する他の文字列を指定します。そのためには、[文字列の分析] に文字列を入力し、[分析] をクリックします。その文字列の追加情報が追加されます。
- グラフ内の長方形を選択して、対応するエンティティの詳細を表示します。[次のセクション](#)を参照してください。

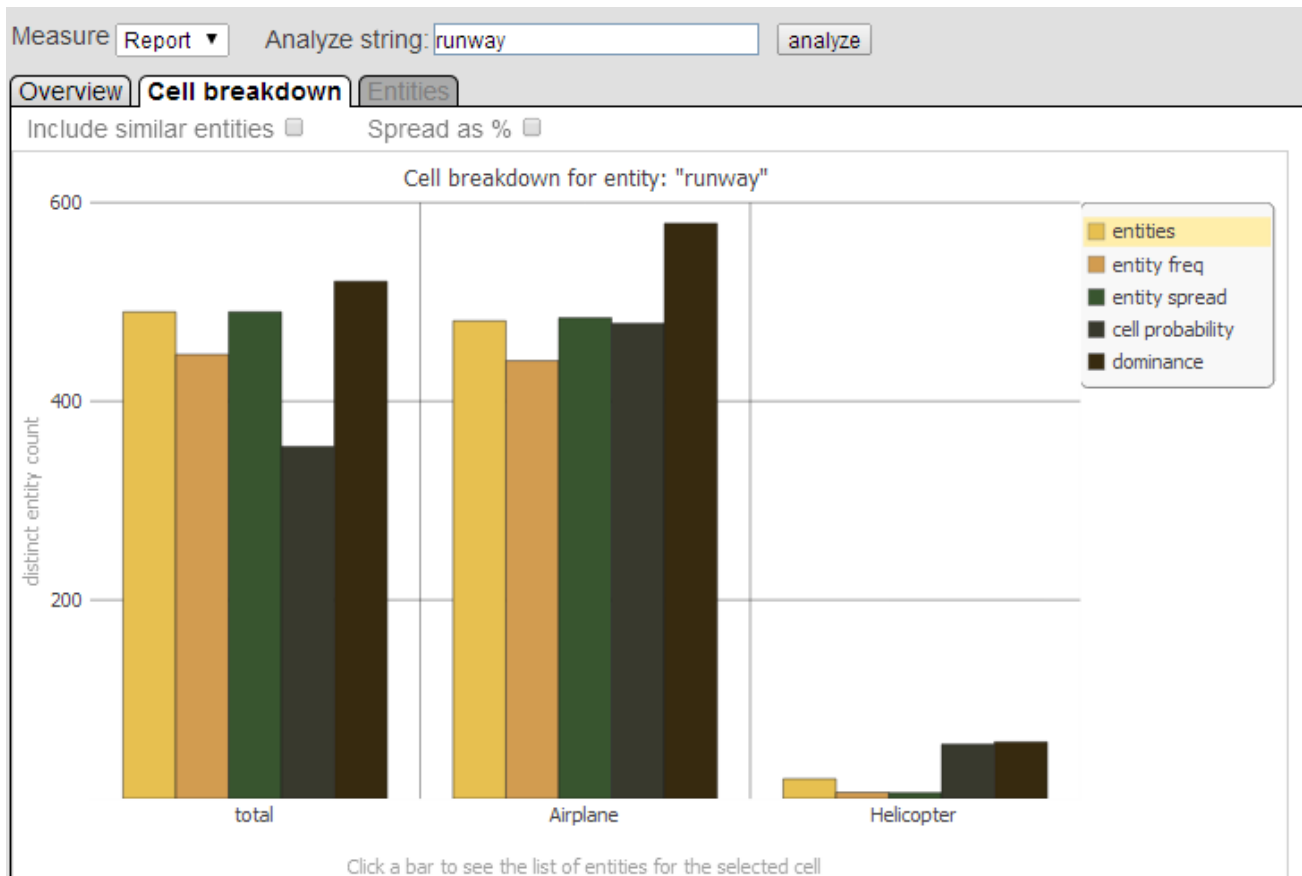
## 5.6.2 [セル詳細] タブ

[セル詳細] タブは、元のピボット・テーブルで複数のセルを選択している場合のみ有効です。

このタブには、元のピボット・テーブルのセルの中でエンティティがどのように分布しているかが表示されます。[概要] タブで長方形を選択すると、[セル詳細] タブが表示され、該当するエンティティの情報が表示されます。

[セル詳細] タブは以下のようになります。





このタブには、分析ボタンを選択する前に選択したピボット・テーブルのセルの中で指定されたエンティティがどのように分布しているかが表示されます。セルごとに、以下のデータ系列について示す 5 つの色分けされた棒がグラフに表示されます。

- ・ **【エンティティ】** – 指定されたピボット・テーブルのセルに関連付けられているレコードの中で、類似するエンティティの個別の数を示します。これには、指定されたエンティティに類似するすべてのエンティティの数が含まれます。
- ・ **【エンティティの頻度】** – エンティティの頻度、つまり指定されたピボット・テーブルのセルに関連付けられているレコードの中で、指定されたエンティティが出現する回数を示します。

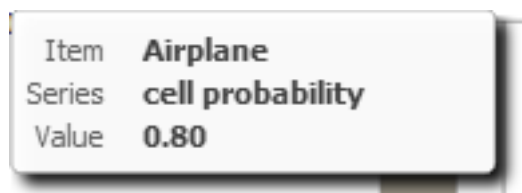
**【類似するエンティティを含む】** を選択すると、類似するエンティティもこの計算に含まれます。

- ・ **【エンティティの分散】** – エンティティの分散、つまり指定されたピボット・テーブルのセルについて、指定されたエンティティが出現するレコードの総数を示します。

**【類似するエンティティを含む】** を選択すると、類似するエンティティもこの計算に含まれます。

- ・ **【セルの確率】** – 対象エンティティの Naive Bayes の確率に基づき、選択されたピボット・テーブルのセルに対して、指定されたエンティティが指標としてどの程度活用されているかを示します。
- ・ **【優位性】** – これらのレコードの中で、指定されたエンティティがどの程度優位であるかを示します。詳細は、“意味的優位性” を参照してください。

重要 これらのデータ系列は個別に拡大縮小され、すべてがグラフに表示されます。グラフに表示される目盛りは[エンティティ]系列にのみ適用されます。任意の棒の実際の数値を表示するには、棒の上にカーソルを置きます。以下はその例です。



このタブでは、次の操作を実行できます。

- ・ 別の NLP メジャーを選択して分析します。そのためには、[メジャー] の項目を選択します。
- ・ 類似するエンティティを[エンティティの頻度] および[エンティティの分散] の計算に含めます。そのためには、[類似するエンティティを含む] を選択します。
- ・ [エンティティの分散] の代わりに[エンティティの分散率] (レコード総数に対するエンティティの分散の割合) を表示します。そのためには、[割合としての分散] を選択します。
- ・ 分析する他の文字列を指定します。そのためには、[文字列の分析] に文字列を入力し、[分析] をクリックします。
- ・ このグラフの棒を選択すると、関連するエンティティが表示されます。[次のセクション](#)を参照してください。

### 5.6.3 [エンティティ] タブ

[エンティティ] タブには、指定されたピボット・テーブルのセルの中で関連するエンティティが表示されます。[セル詳細] タブで棒を選択すると、[エンティティ] タブが表示され、関連する詳細が表示されます。

[エンティティ] タブは以下ようになります。

Measure	Report ▼	Analyze string: runway	analyze
Overview	Cell breakdown	Entities	
entity	frequency	spread	
runway	1102	484	
runway surface	54	41	
runway centerline	48	38	
asphalt runway	25	24	
runway 27	41	24	
runway 17	27	22	
runway 36	23	17	
runway 30	23	17	
runway 24	30	17	
runway 26	33	16	
runway 32	24	16	
runway 14	23	16	

このタブでは、次の操作を実行できます。

- ・ 別の NLP メジャーを選択して分析します。そのためには、[メジャー] の項目を選択します。
- ・ 分析する他の文字列を指定します。そのためには、[文字列の分析] に文字列を入力し、[分析] をクリックします。その文字列の情報が表示されます。
- ・ 結果をページ送りします。そのためには、[<<] ボタンと [>>] ボタンを使用します。

